秋田県文化財調査報告書第126集

遺跡詳細分布調査報告書

1985・3

秋田県教育委員会

序

秋田県には数多くの埋蔵文化財が存在します。埋蔵文化財については近年の大規模な開発に対処して、より詳しく遺跡の性格を知るための調査が必要とされており、その基礎となるのが遺跡分布調査、範囲確認調査です。

本報告書は、昭和59年度、国庫補助事業として実施した西山農免農道、秋田県立中央公園青少年教育ゾーン、一般国道13号刈和野バイパス、東北横断自動車道秋田線協和インターチェンジの各遺跡分布調査と東北横断自動車道秋田線、県立羽後高等学校建設予定地内の遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものです。これらの遺跡は昭和60年度に開発事業が予定される区域内にあるものもあり、早急に埋蔵文化財保護の立場で対処していきたいと考えております。

最後になりましたが、この調査に多大の御協力をいただきました関係各機関に厚く御礼申しあげるとともに、今後も埋蔵文化財の保護に御援助くださいますようお願い申しあげます。

昭和60年3月

秋田県教育委員会

教育長　斎　藤　　長

例　　言

1．本書は昭和59年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した、遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものである。

2．遺跡分布調査は冨樫泰時、永瀬福男、大野憲司、熊谷太郎、柴田陽一郎、小林克、秋元信夫、遺跡範囲確認調査は桜田隆、柴田陽一郎、橋本高史、小林克、鈴木俊男が担当した。

3．編集は主に橋本高史が行ったが、本文中の調査結果は上記担当者の執筆したものである。

4．上谷地中遺跡の採拓・実測は柏谷愛子、加藤えり子、後藤正子、斉藤美恵子、皆川恵子が行った。

5．本書に使用した地図は、建設省国土地理院発行５万分の１地形図、日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所作成の千分の１地形図、建設省作成２万５千分の１地形図、羽後町作成５万分の１及び５千分の１地形図などである。

6．雄勝郡（５町村）・平鹿郡（７町村）の遺跡分布調査を実施した。その報告は後に遺跡分布地図として発行する予定であるので、ここでは省略した。

7．本調査には次の機関からご協力いただいた。

鹿角市教育委員会
秋田県鹿角農林事務所
秋田県土木部都市公園建設事務所
西仙北町中央公民館
建設省
日本道路公団仙台建設局秋田工事事務所
羽後町役場総務課
羽後町教育委員会

目　　次

序

例　言

第１章　はじめに……1

第２章　昭和59年度遺跡分布調査・範囲確認調査実施要項……1

第１節　遺跡分布調査……1

第２節　遺跡範囲確認調査……3

第３章　調査の記録……4

第１節　遺跡分布調査……4

西山農免農道関係

中畑遺跡、太田谷地遺跡、用野目川向Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡、堪忍沢遺跡
高屋館跡、高瀬館跡……4

秋田県立中央公園青少年教育ゾーン関係

軽井沢Ａ・Ｂ・Ｃ遺跡……12

一般国道13号刈和野バイパス改築事業関係……18

東北横断自動車道秋田線協和インターチェンジ関係

上ノ山Ⅱ遺跡、館野遺跡……25

第２節　遺跡範囲確認調査……28

東北横断自動車道秋田線関係

石坂台Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ遺跡、松木台Ⅲ遺跡……28

県立羽後高等学校建設予定地関係

上谷地中遺跡……44

挿　図　目　次

第１図　西山農免道路線上の遺跡位置図……5
第２図　青少年教育ゾーン内遺跡位置図……13
第３図　遺跡範囲図……14
第４図　刈和野バイパス路線上の遺跡位置図……19
第５図　遺跡と周辺地形（No.１・No.２）……20
第６図　遺跡と周辺地形（No.３・No.４）……21
第７図　遺跡と周辺地形（No.５・No.６）……22
第８図　協和インターチェンジ内遺跡位置図……25
第９図　遺跡範囲図……26
第10図　東北横断自動車道路線上の遺跡位置図……29
第11図　調査個所、現況図……31
第12図　調査個所、現況図……33
第13図　調査個所、現況図……36
第14図　調査個所、現況図……39
第15図　調査個所、現況図……41
第16図　上谷地中遺跡位置図……45
第17図　上谷地中遺跡新旧地形図及び土層断面図……46
第18図　ＳＱ04・05・06・08配石遺構……50
第19図　ＳＱ23・36・37配石遺構……51
第20図　ＳＱ15配石遺構……52
第21図　上谷地中遺跡出土土器拓影図(1)……56
第22図　上谷地中遺跡出土土器拓影図(2)……58
第23図　上谷地中遺跡出土土器拓影図(3)……60
第24図　上谷地中遺跡出土円盤状土・石製品実測図……62
付　図　上谷地中遺跡配石遺構実測図

表　目　次

第１表　東北横断自動車道秋田線河辺町地区範囲確認調査跡地名表……28

第1章　はじめに

昭和59年度の遺跡分布調査は、西山農免農道、秋田県立中央公園青少年教育ゾーン、一般国道13号刈和野バイパス、東北横断自動車道秋田線協和インターチェンジ関係について実施した。

また、遺跡範囲確認調査は、東北横断自動車道秋田線、県立羽後高等学校建設予定地に係る８遺跡の調査を実施した。

調査は秋田県教育庁文化課、秋田県埋蔵文化財センター、鹿角市教育委員会社会教育課、羽後町役場元西支所の職員が実施した。

第2章　昭和59年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項

第1節　遺跡分布調査

1．調査の目的

工事が計画されている農道、高速自動車道、国道、公園等の区域内を踏査し、遺跡の有無を確認し、埋蔵文化財の保護策を講ずるものである。

2．調査主体者

秋田県教育委員会

3．調査対象地域

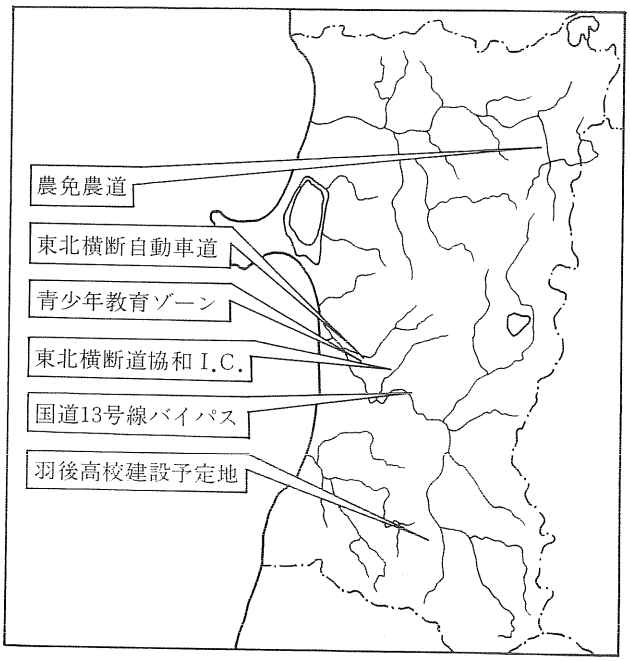
西山農免農道（鹿角市）、秋田県立中央公園青少年教育ゾーン（雄和町、河辺町）、一般国道13号刈和野バイパス（西仙北町、協和町）、東北横断自動車道秋田線協和インターチェンジ（協和町）に係る地域を対象とした。

4．調　査　員

秋田県教育庁文化課	学芸主事	冨樫　泰時
秋田県埋蔵文化財センター	社会教育主事	永瀬　福男
	社会教育主事	大野　憲司
	社会教育主事	熊谷　太郎
	文化財主事	柴田陽一郎
	文化財主事	小林　　克
鹿角市教育委員会社会教育課	主　　事	秋元　信夫

5．調査の方法

計画路線の範囲内を遺物の表面採集及び一部試掘調査を実施して、遺跡の所在を確認する。



昭和59年度詳細分布調査実施個所

第２節　　遺跡範囲確認調査

１．調査の目的

高速自動車道、高等学校建設等の開発計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護・保存策を講ずるものである。

２．調査主体者

秋田県教育委員会

３．調　査　員

秋田県埋蔵文化財センター	文化財主事	桜田　　隆
	文化財主事	柴田陽一郎
	文化財主事	橋本　高史
	文化財主事	小林　　克
羽後町役場元西支所	主　　任	鈴木　俊男

４．調査対象地域

東北横断自動車道秋田線（河辺町）、県立羽後高等学校建設予定地（羽後町）に係る地域を対象とした。

５．調査の方法

(1)　表面採集及び発掘調査（遺構確認面・遺物包含層上面までの掘り下げ）を行い、遺跡の広さ・深さ及びその時代と性格などを推定する。

(2)　調査期間は14～24日間とし、その期間内でできる限り発掘面積を面的に広げて遺構の確認に努める。

(3)　地形図は開発部局などで作成した一番大きな縮尺図面のものを使用し、新規に測量は行わない。

(4)　遺構・遺物の有無、堆積土層の厚さ、遺物包含層などを確認し記録する。遺跡全体と発掘状況の写真は必ず撮影する。また、心要に応じて遺構の実測なども行う。

(5)　遺跡の立地条件等に即した適切な調査を実施する。

第3章　調査の記録

第1節　遺跡分布調査

西山農免農道関係

1．調査期間

昭和59年6月26日・27日、昭和59年12月3日・4日

2．調査担当者

冨樫　泰時、　秋元　信夫

3．確認遺跡

鹿角市西山農免農道は米代川の左岸を米代川に沿って走る全長6.5kmの農道である。南の起点は尾去沢の北方約1kmの久保田橋で、そこから台地にのぼり北に走って神田の西側国道103号線に至る全長6,515mの道路である。

この計画路線上を最初昭和59年6月26日・27日に踏査して遺跡の有無を確認し、この時遺跡か否かはっきりしない地域について同年12月3日・4日坪掘りを実施して確認した。

(1)**中畑遺跡**　鹿角市花輪字中畑

遺物包含地神田沢川と花軒田川に挟まれた標高170mの台地南西部にある。台地は西側に向って緩斜面をなす。試掘した結果、北側では地山まで50cm、南側で110cmあり地点により黒土の厚さが異なる。遺物は弥生土器片、縄文土器片、不定形石器がある。現況は果樹園。

(2)**太田谷地館跡**　鹿角市花輪字太田谷地

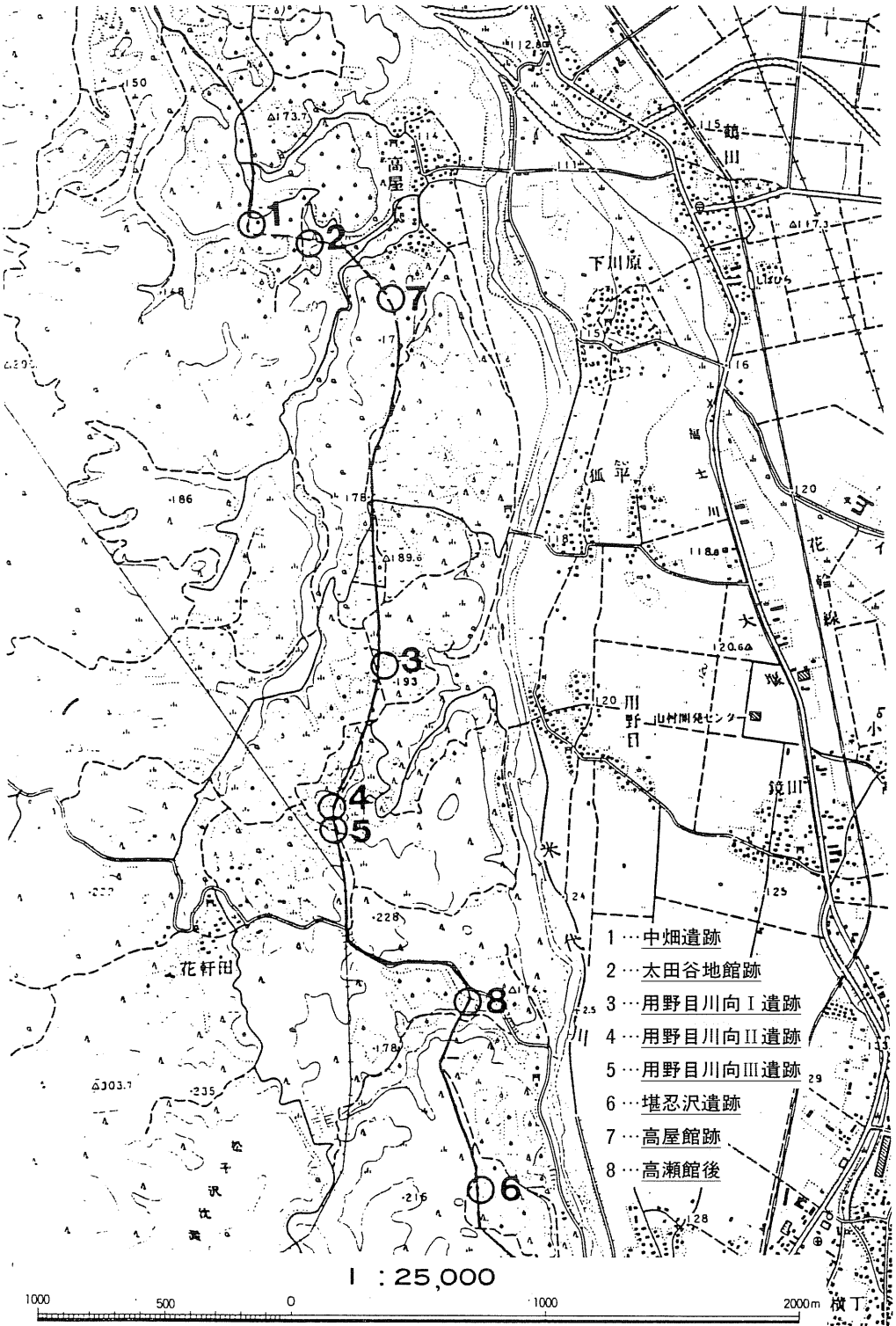
神田川と花軒田川に挟まれた標高150m～170mの舌状台地の東南端にあたる。空壕と沢等で区切られた三つの郭を確認した。この館跡はさらに西側へ広がる可能性がある。北西に高屋館跡があり、それとの関連も考慮する必要がある。現況は山林、原野、果樹園。

(3)**用野目川向Ⅰ遺跡**　鹿角市花輪字用野目川向

遺物包含地。米代川と花軒田川に挟まれた起伏の多い標高約193mの山地尾根部分にある。馬の背状に延びた平坦部と東西に延びた緩斜面が遺跡の範囲と考えられる。出土遺物は縄文時代後期前葉の土器片がある。現況は山林。

(4)**用野目川向Ⅱ遺跡**　鹿角市花輪字用野目川向

遺物包含地。米代川と花軒田川上流の堤ノ沢とに挟まれた標高205mの山頂部とこれから南西方向へ延びた緩斜面が遺跡と考えられる。出土遺物は縄文時代晩期・弥生時代の土器片



第１図　西山農免農道路線上の遺跡位置図

がある。現況は畑地。

(5)**用野目川向Ⅲ遺跡**　　鹿角市花輪用野目川向

遺物包含地。米代川と花軒田川によって挟まれた標高 200 mの丘陵西斜面が遺跡で、南北に延びる尾根上部と西側斜面がその範囲と考えられる。出土遺物は縄文土器片、弥生土器片、土師器片などがある。現況は畑地。

(6)**堪忍沢遺跡**　　鹿角市花輪字堪忍沢

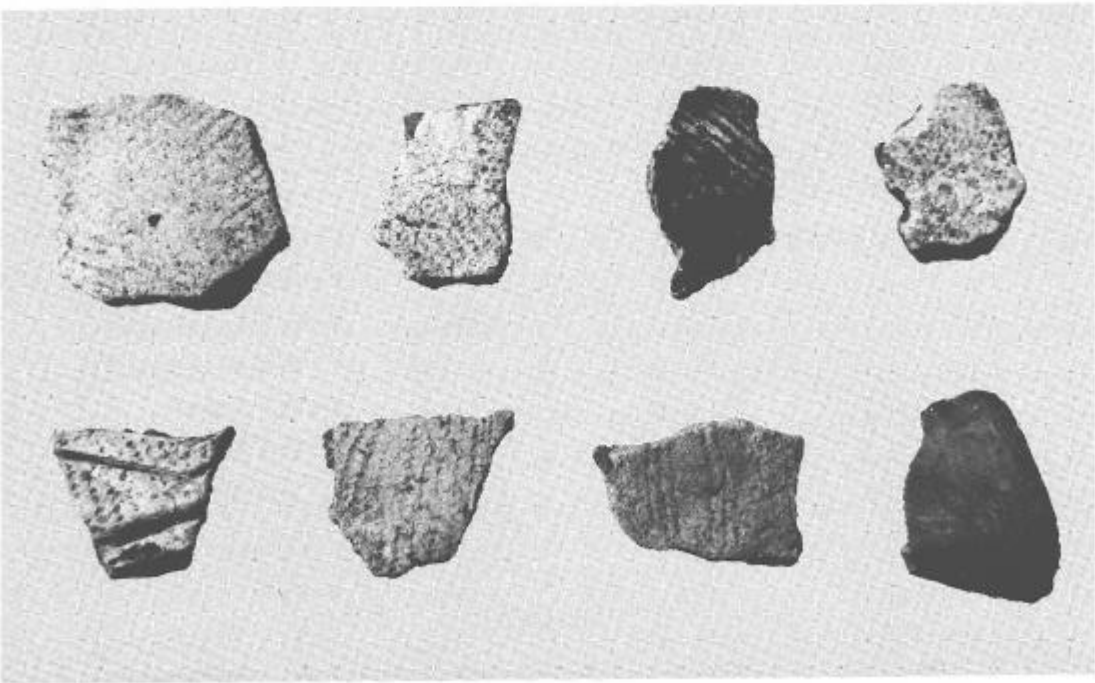
遺物包含地。米代川左岸の標高 177 mの段丘上にある。高瀬館の南側に接していることから、同館との関連も考えられる。出土遺物は縄文土器片、陶器片がある。現況は平坦で原野、畑地

(7)**高屋館跡**　　鹿角市花輪字館ヶ沢（周知遺跡）

米代川と花軒田川とに挟まれた南北に延びる舌状台地北端にある平山城である。標高 150 m前後の台地を利用した多郭連続式の館跡で、その広さは南北380m、東西500mほどある。出土遺物は南端部から縄文時代後期の土器片があり、縄文時代後期の遺跡の存在も考えられる。現況は山林、畑地、果樹園。

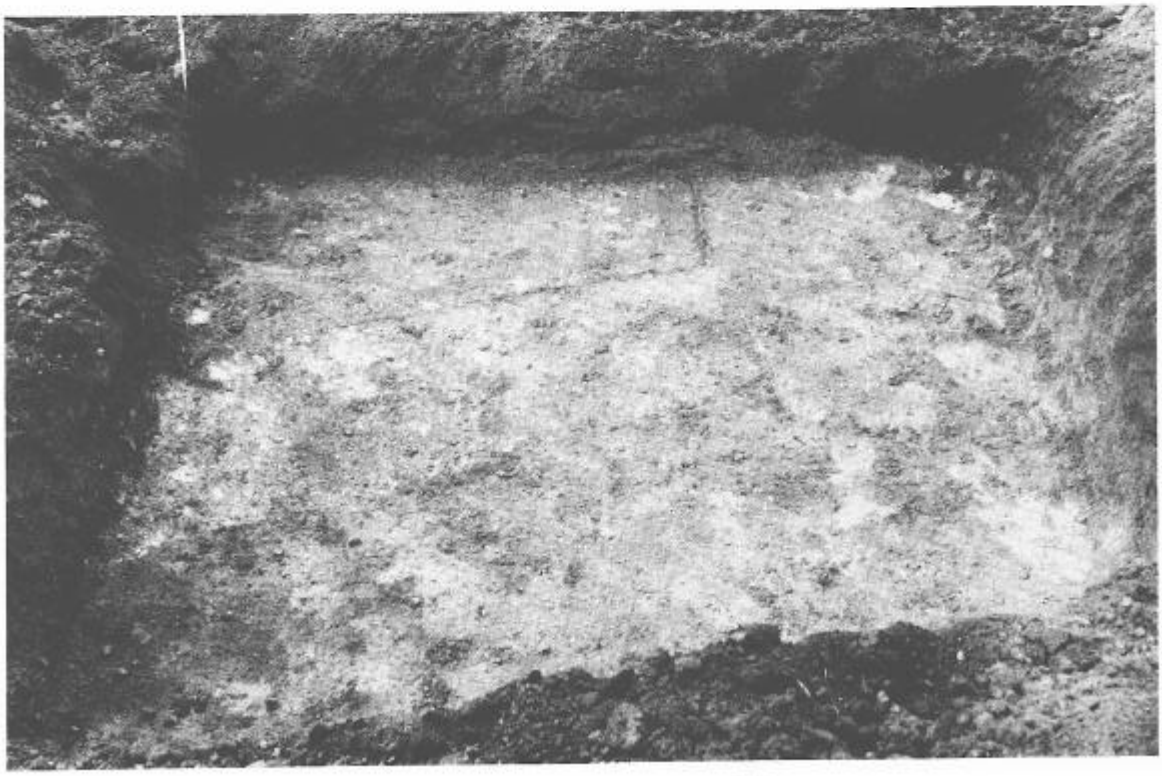
(8)**高瀬館跡**　　鹿角市花輪字堪忍沢、字浦館、字小森沢（周知遺跡）

米代川に面した段丘上にある。平山城で広さは南北1,000m、東西160mの多郭式の館跡である。出土遺物は土師器片。現況は山林、畑地、原野。

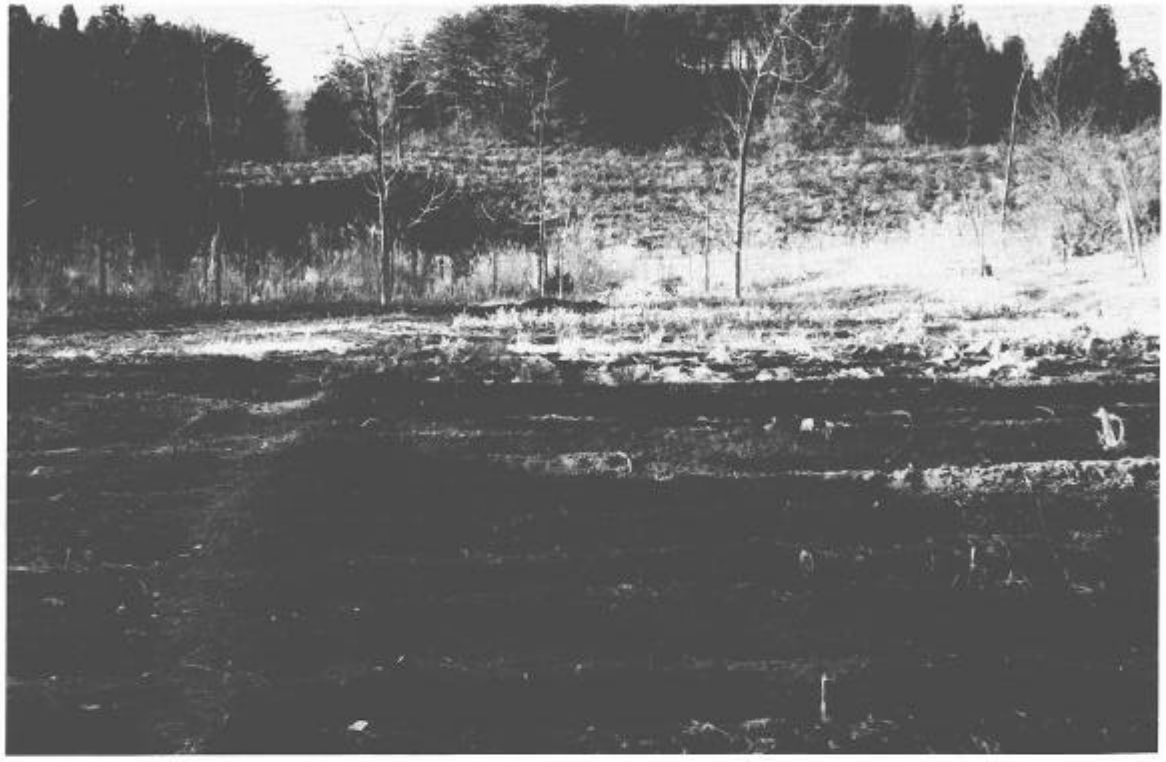


中畑遺跡出土遺物

用野目川向Ⅲ遺跡遠景

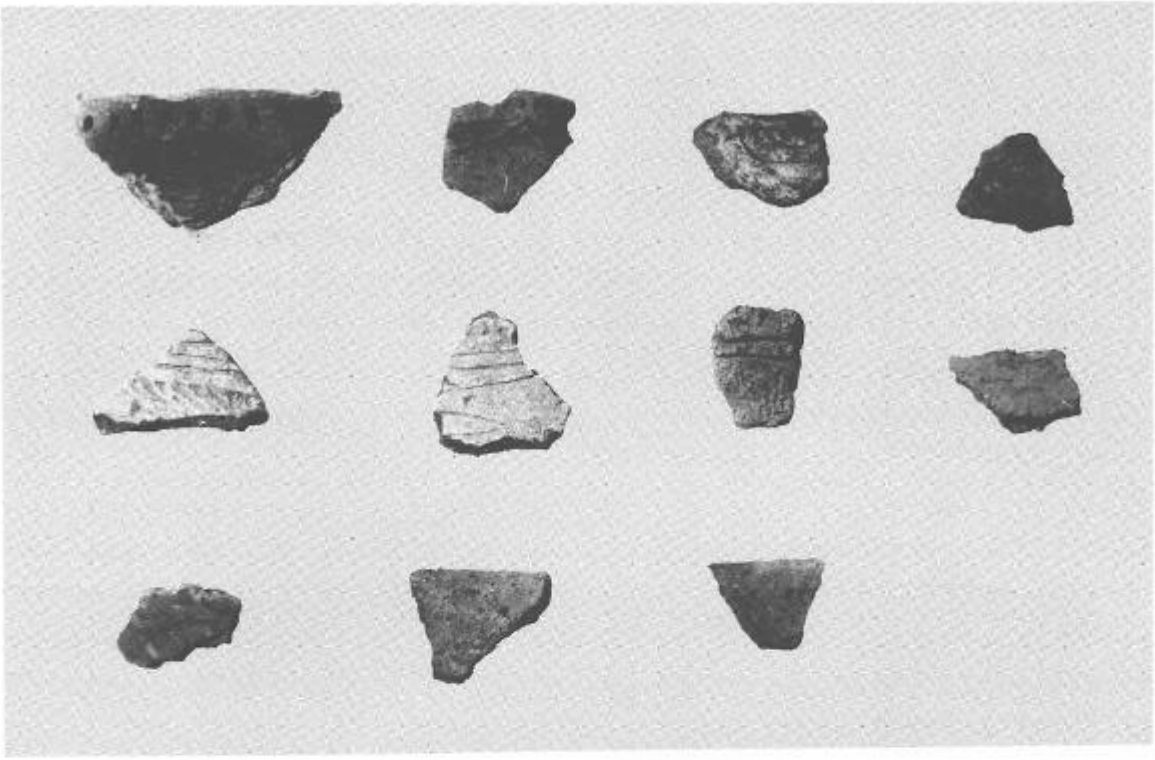


用野目川向Ⅲ遺跡　竪穴状遺構

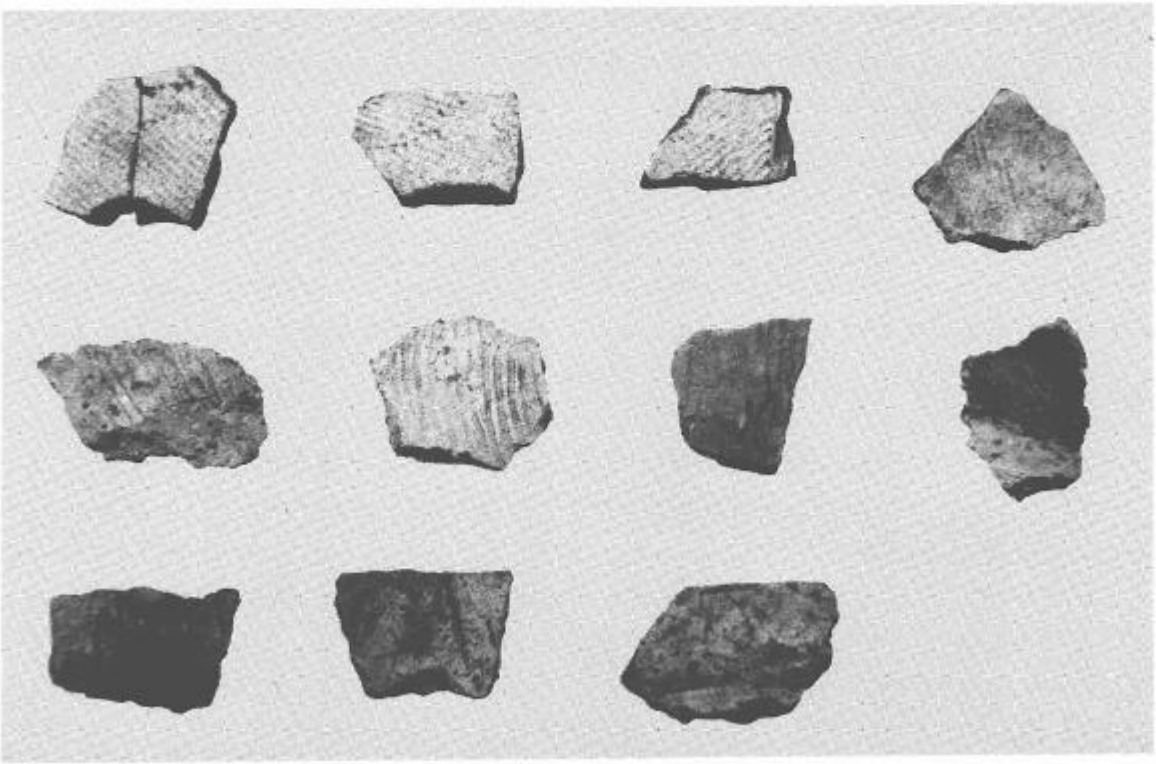


堪忍沢遺跡遠景

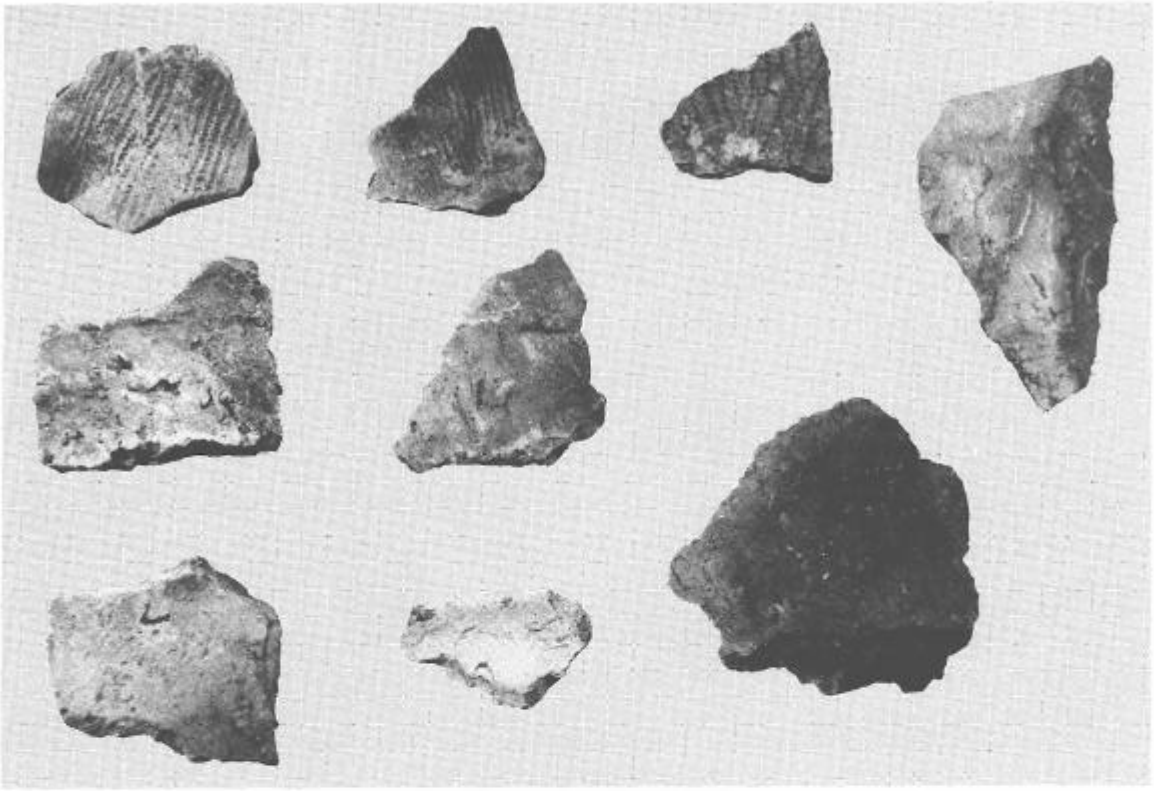
高瀬館跡遠景



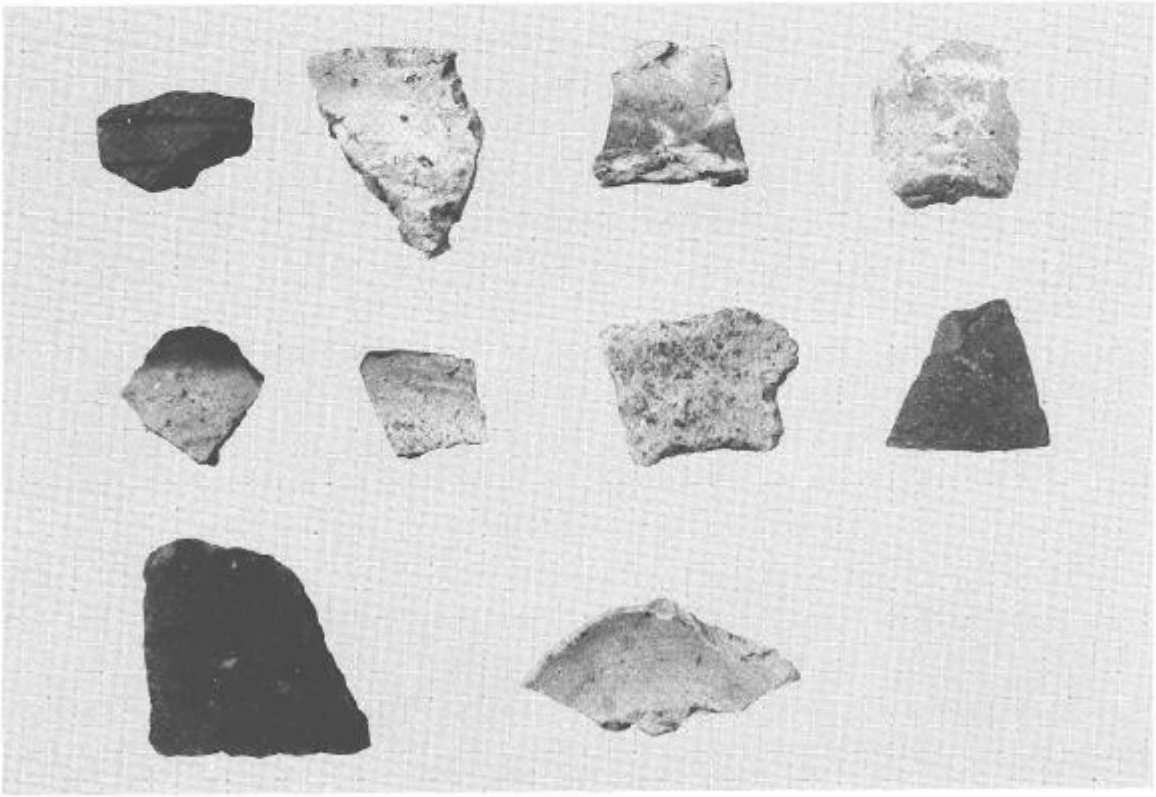
用野目川向II遺跡出土遺物



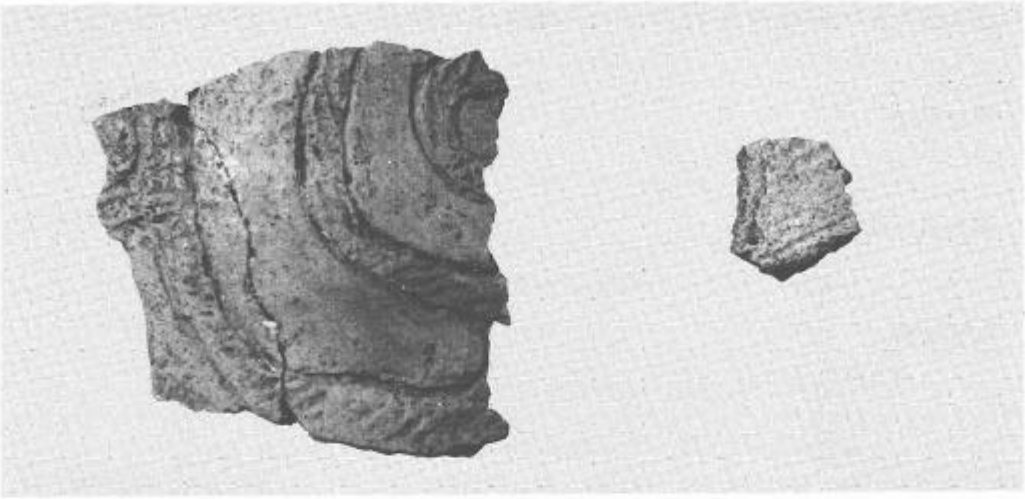
用野目川向II遺跡出土遺物



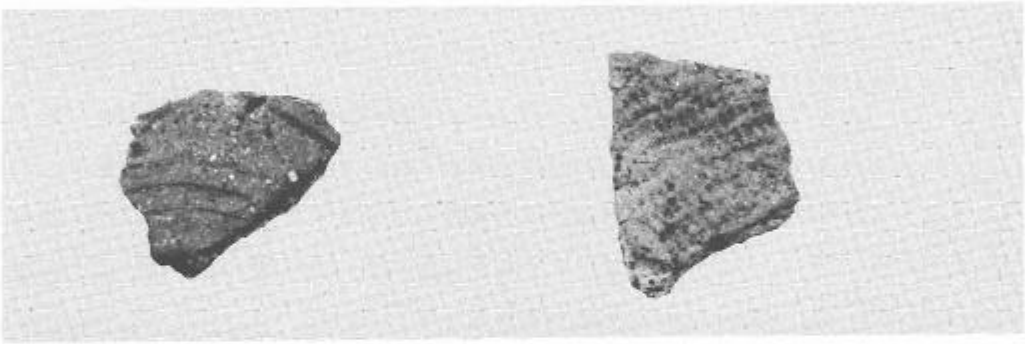
用野目川向III遺跡出土遺物



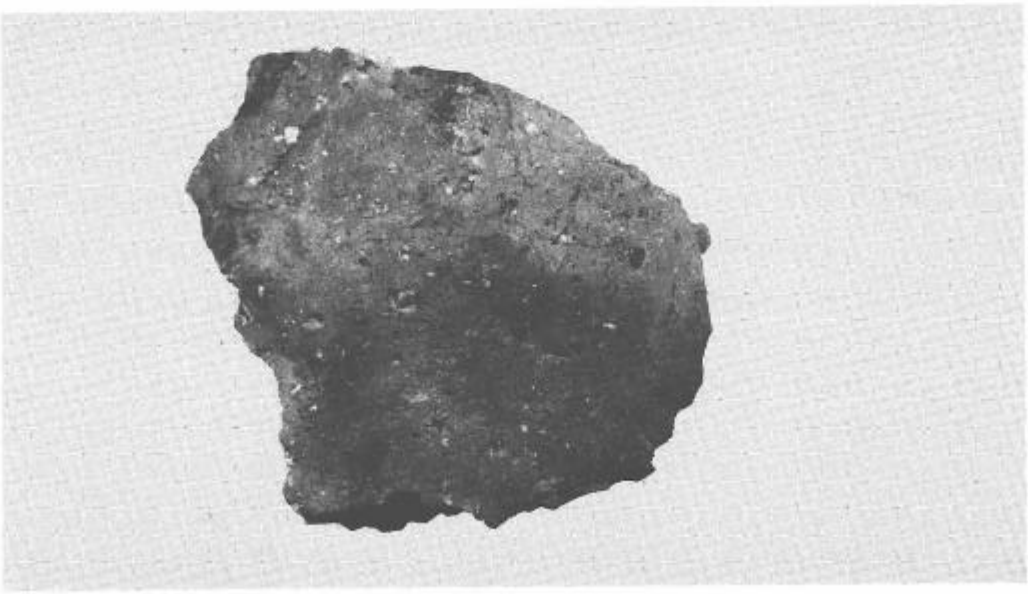
堪忍沢遺跡出土遺物



用野目川向Ⅰ遺跡出土遺物



高屋館跡出土遺物



高瀬館跡出土遺物

秋田県立中央公園青少年教育ゾーン整備事業関係

1．調査期間

昭和59年12月３日～12月６日

2．調査担当者

熊谷　太郎、　柴田陽一郎

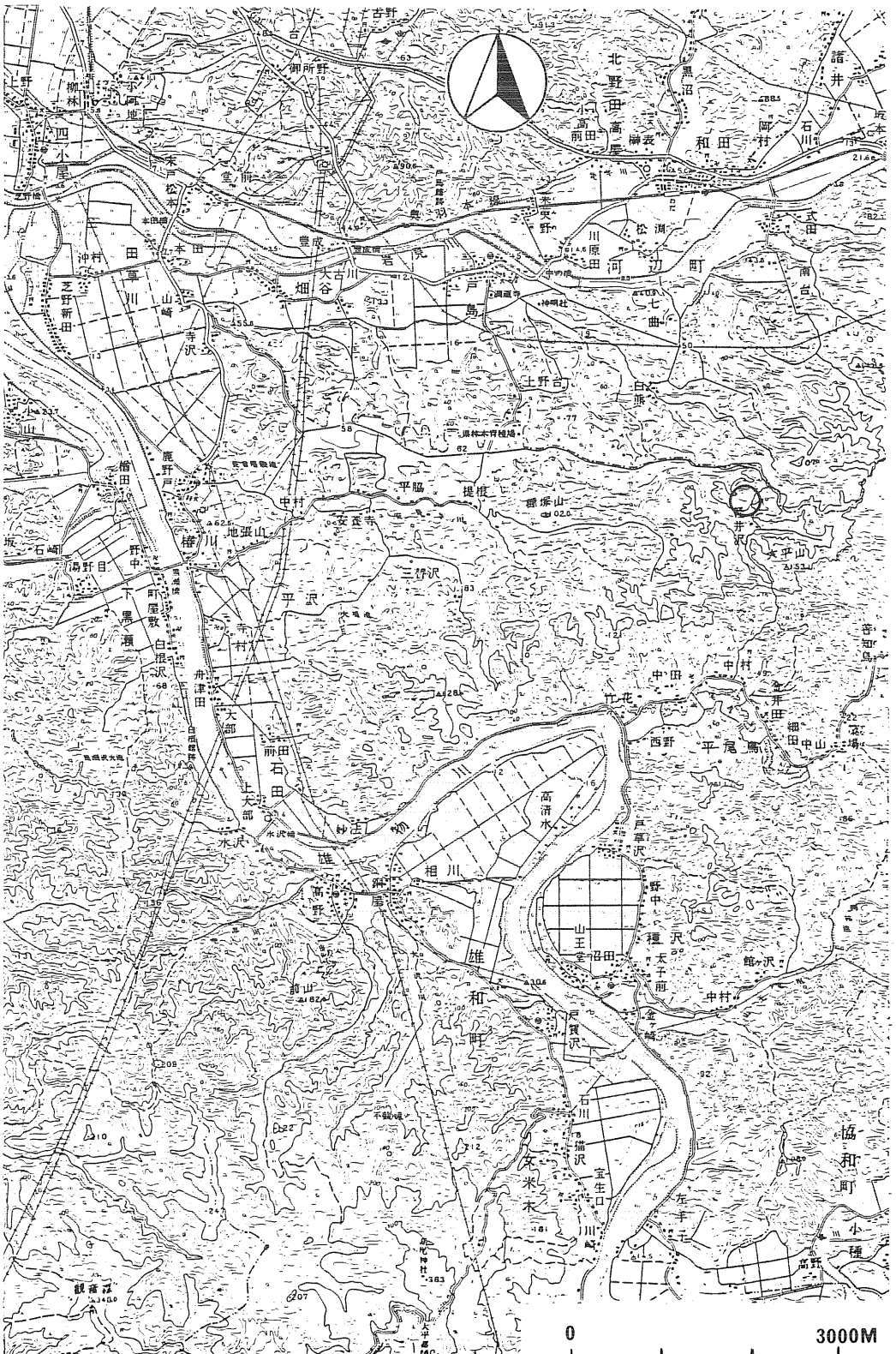
3．確認遺跡

(1)軽井沢Ａ遺跡　河辺郡雄和町椿川字軽井沢52番地

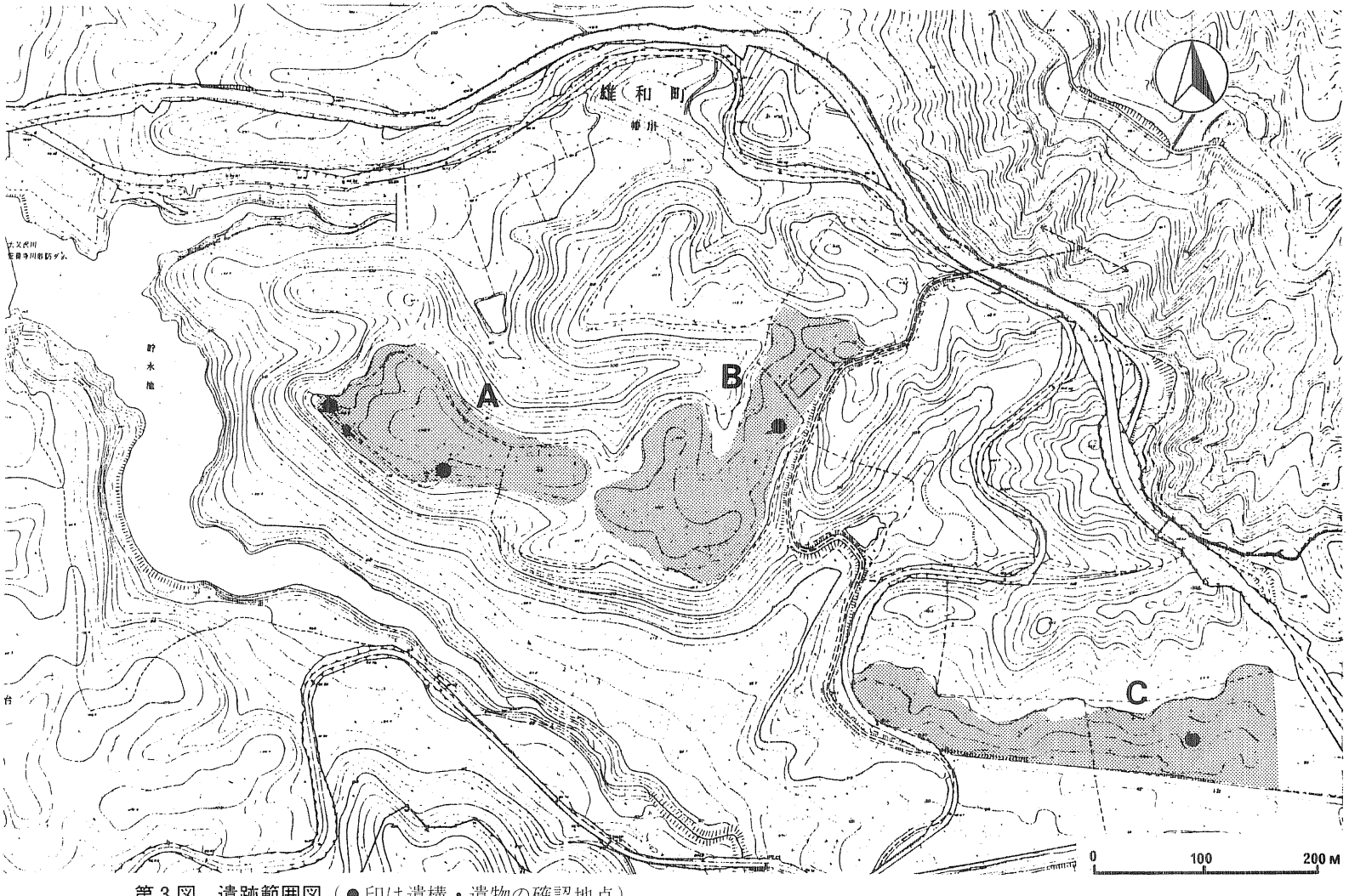
(2)軽井沢Ｂ遺跡　河辺郡雄和町椿川字軽井沢48番地

(3)軽井沢Ｃ遺跡　河辺郡雄和町椿川字軽井沢32番地

遺跡は岩見川と雄物川が合流する三角地にせり出た丘陵のほぼ中央に位置する。標高は110ｍ。現況は牧草地である。確認された遺跡は３か所でＡ遺跡とＢ遺跡は同一丘陵上に、Ｃ遺跡はそれよりさらに100ｍ東方に下った丘陵地の裾部、緩斜面に位置する。確認された遺構、遺物は、Ａ遺跡から焼土遺構２基検出。Ｂ遺跡からは石器が５点出土。いずれも細片で、フレークの類である。Ｃ遺跡からはＴピットが１基検出。確認面で長軸1.7ｍ、短軸0.4ｍの長楕円形を呈する。その他、遺構に隣接して縄文土器片が１点出土している。これらの事から、いずれも縄文時代に属する遺跡と推定される。土層は、Ａ遺跡及びＢ遺跡では、過去に耕地整備が行われたため、表土層を中心に人為的な撹乱を受けている所が多い。又、削平や盛土も一部でなされ、地形もある程度変容していると思われる。現状では１層が黒色土（５～７cm）。２層が黒色土を部分的に混入する褐色土（５～20cm）で、この層が欠除している個所もある。３層は地山層。Ｃ遺跡は１層が黒色土（８～10cm）。２層が黒色褐色土（10～13cm）。３層が地山層。各遺跡共、２層下位から地山面にかけて遺構が検出されている。



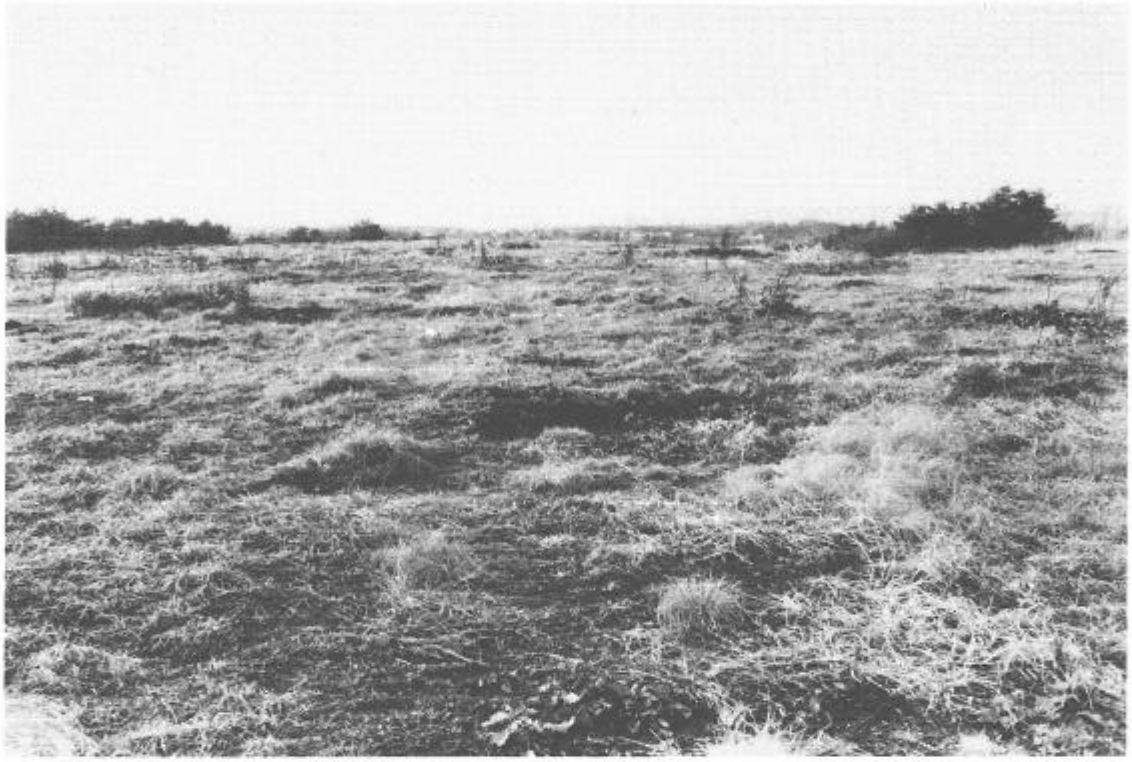
第２図　青少年教育ゾーン内遺跡位置図



第3図　遺跡範囲図（●印は遺構・遺物の確認地点）

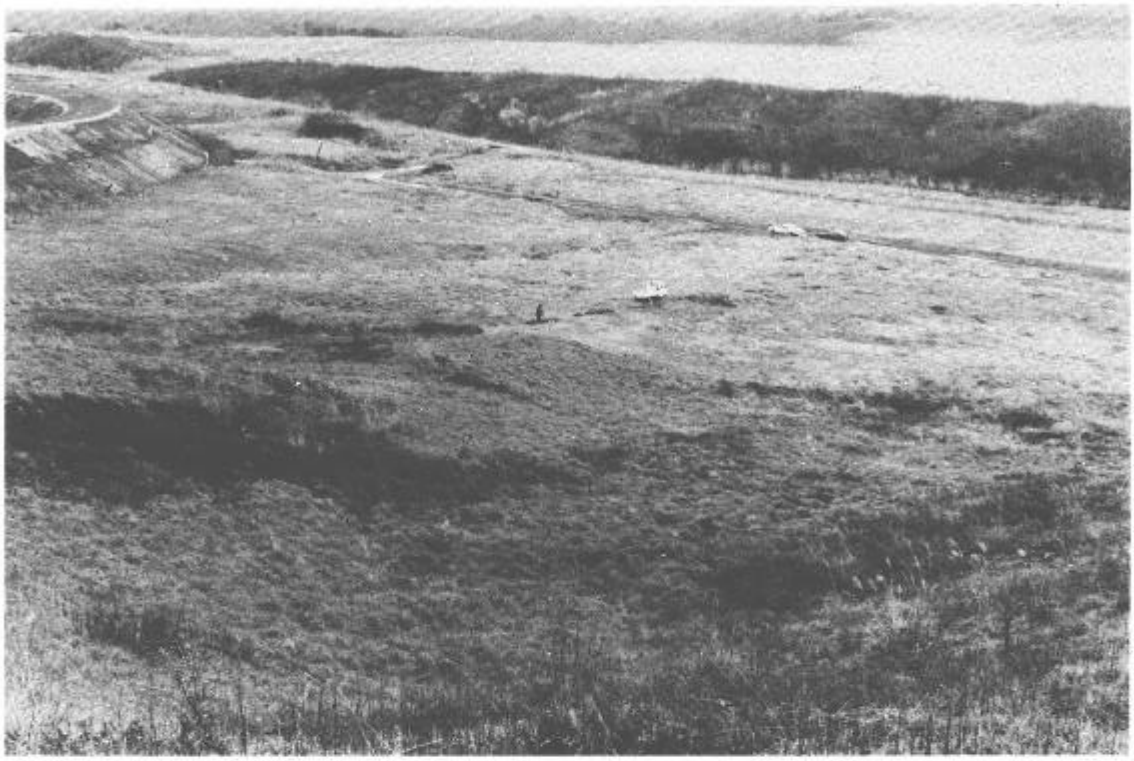
軽井沢A、軽井沢B遺跡遠景

軽井沢B遺跡全景

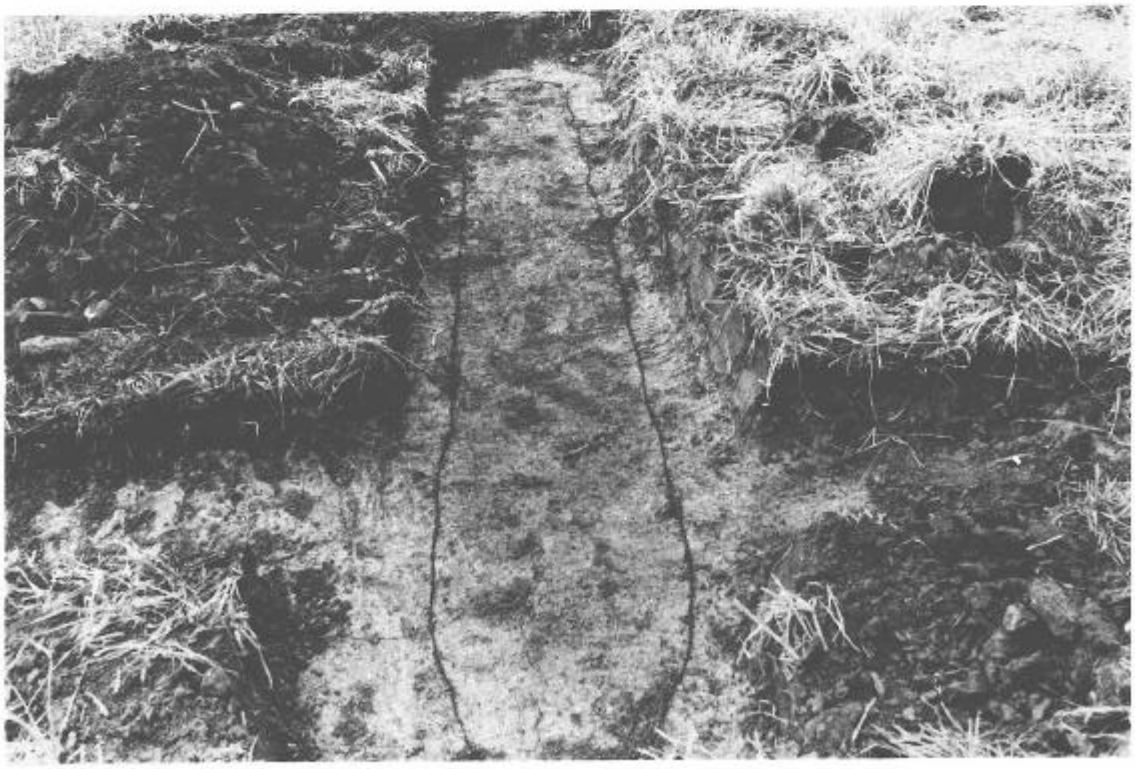


軽井沢B遺跡全景

軽井沢B遺跡焼土遺構



軽井沢C遺跡全景



軽井沢C遺跡Tピット

一般国道13号刈和野バイパス改築事業関係

1．調査期間

昭和59年12月３日

2．調査担当者

永瀬　福男、　小林　　克

3．確認遺跡

(1)遺物表採地点

以下に掲げる２地点は踏査によって遺物が表採され、遺跡として発掘調査を必要とした地点である。

○No.１……協和町峰吉川芦沢通29番地

「秋田県の中世城館」に収録された『寄騎館』の一部。南西方向へ突出した所謂〝馬の背〟状の台地上に位置する。表採遺物の時期は縄文時代後期。

○No.６……西仙北町刈和野字笹原台31、～38番地の２

「秋田県遺跡地図」登録の上ノ台遺跡（登録番号 604）と大佐沢を挟んで東方500ｍに位置。大佐沢東側の台地西端の舌状の台地。現況は水田、畑、杉林。表採遺物は縄文時代に属する。

(2)試掘調査を必要とする地点

○No.２……西仙北町刈和野字川口５番地の３

芦沢と北ノ沢に挟まれた台地の突端。南へ緩く傾斜する地形をもつ。天理教建物の南側部分。現況は杉林と水田。

○No.３……西仙北町刈和野字山北ノ沢22番地

北ノ沢と持ヶ沢に挟まれた台地の西端。南及び東側は緩傾斜面となる。現況は畑地。

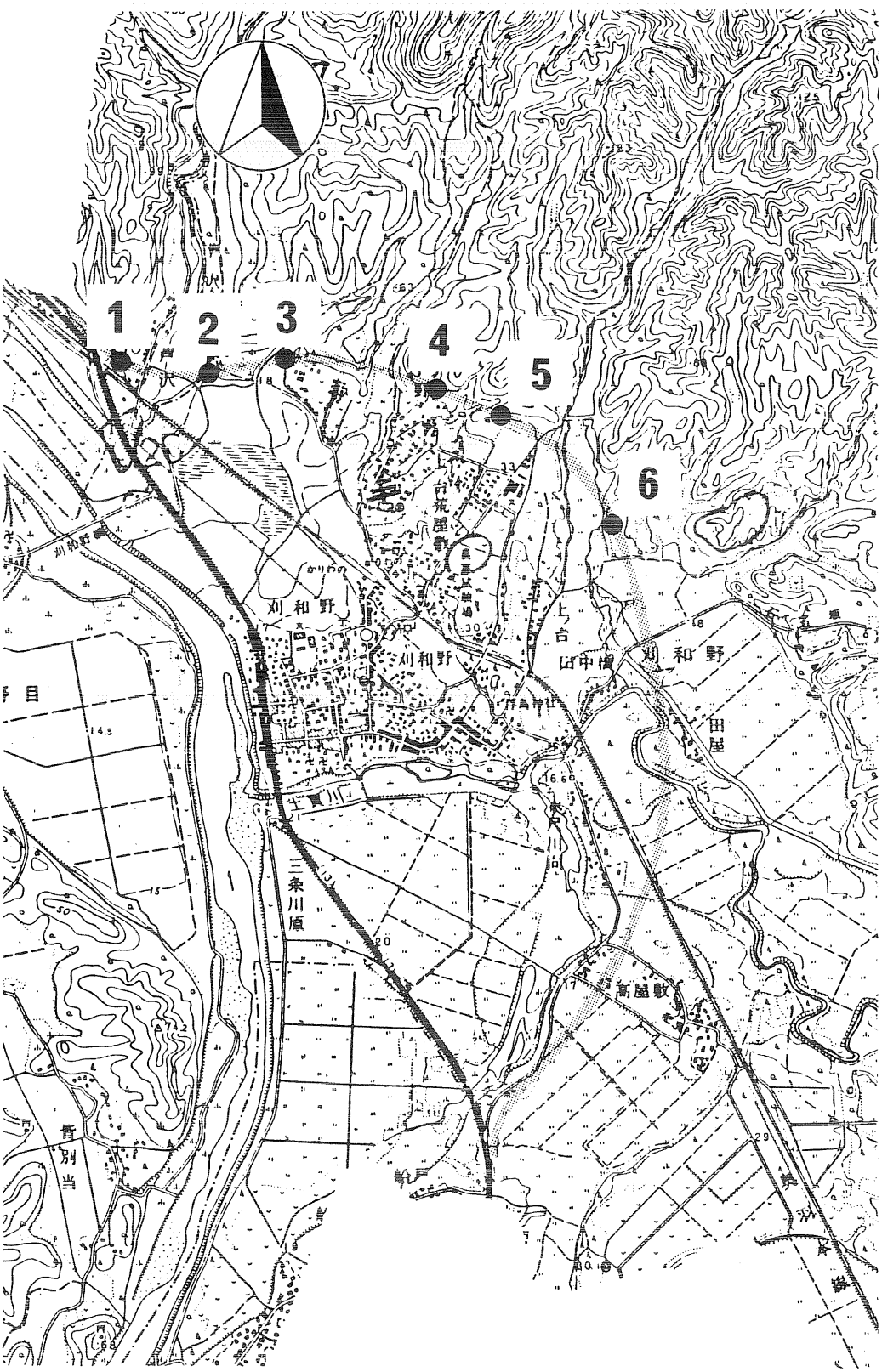
○No.４……西仙北町刈和野字島山６－４、７番地

北ノ沢、大佐沢によって挟まれた台地の西部。北側は丘陵。現況畑地。

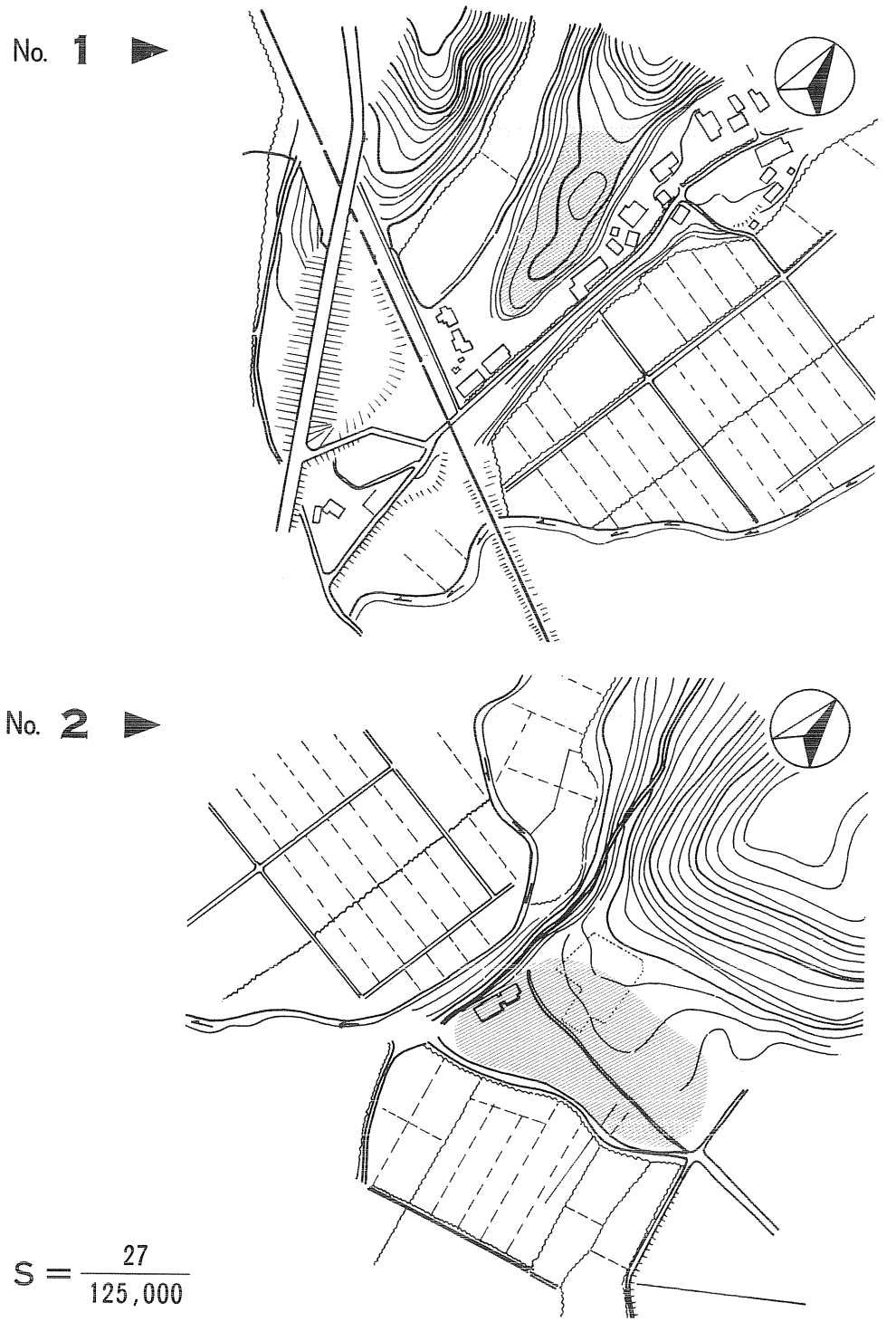
○No.５……西仙北町刈和野字山堂ヶ沢６番地の１

北ノ沢、大佐沢によって挟まれた台地の東部。北側は丘陵。現況は雑木、ススキ等の生える荒地。

以上の４地点は踏査によって遺跡の占地の可能性が強い地形をもつ地点と認められたが、改めて土地所有者の承諾を得て試掘を行い、遺跡か否かの判別を行う必要がある。

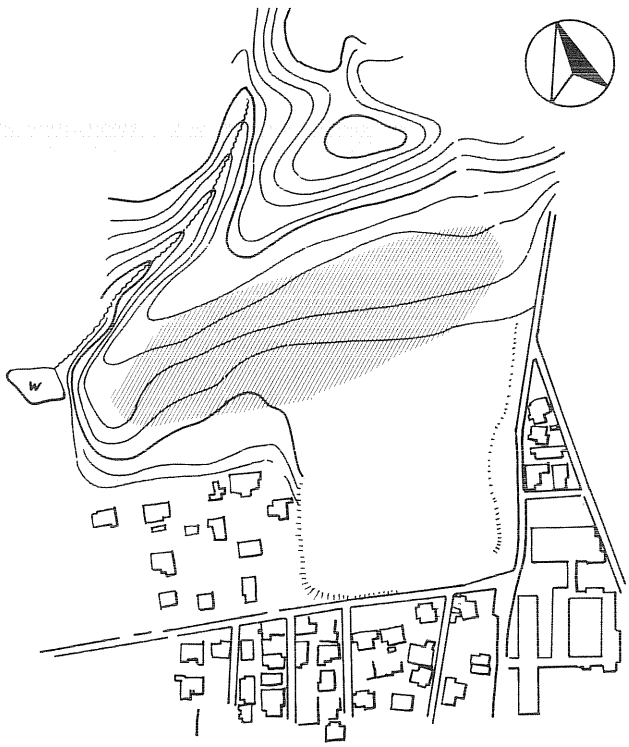


第４図　刈和野バイパス路線上の遺跡位置図（縮尺；２万５千分の１）

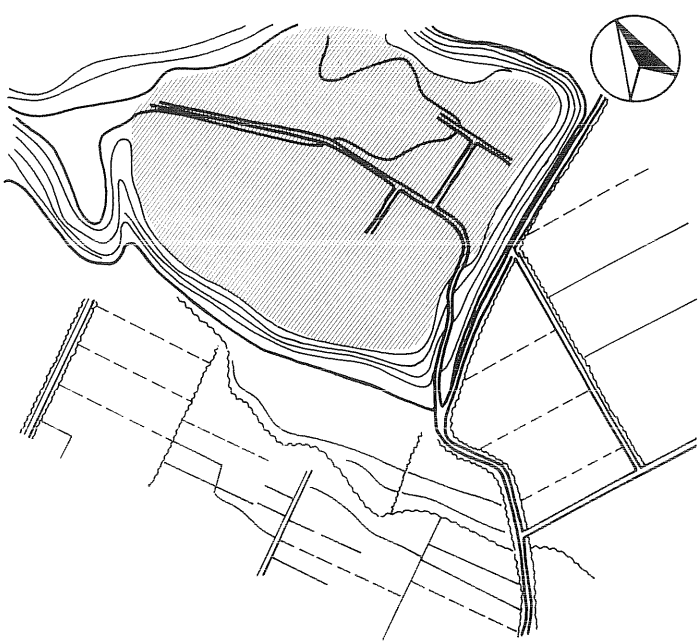


第５図　遺跡と周辺地形（No.１、No.２）

No. 3 ►



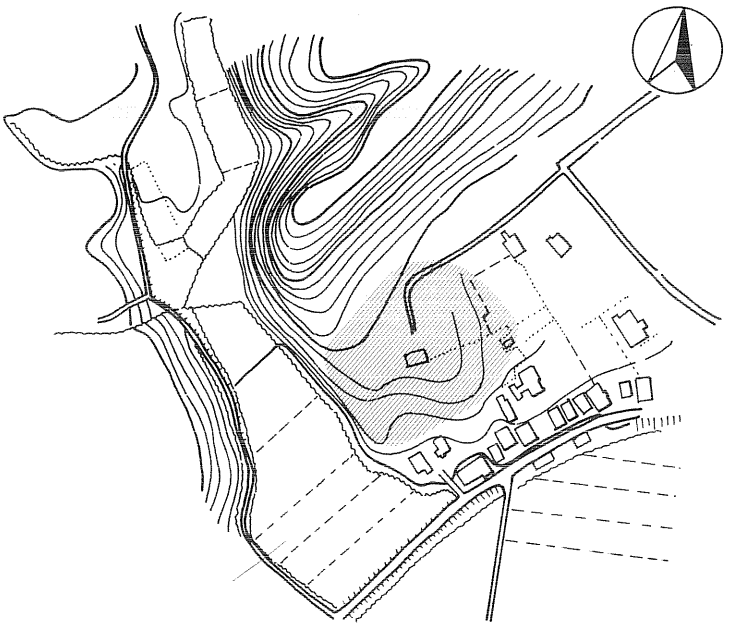
No. 4 ►



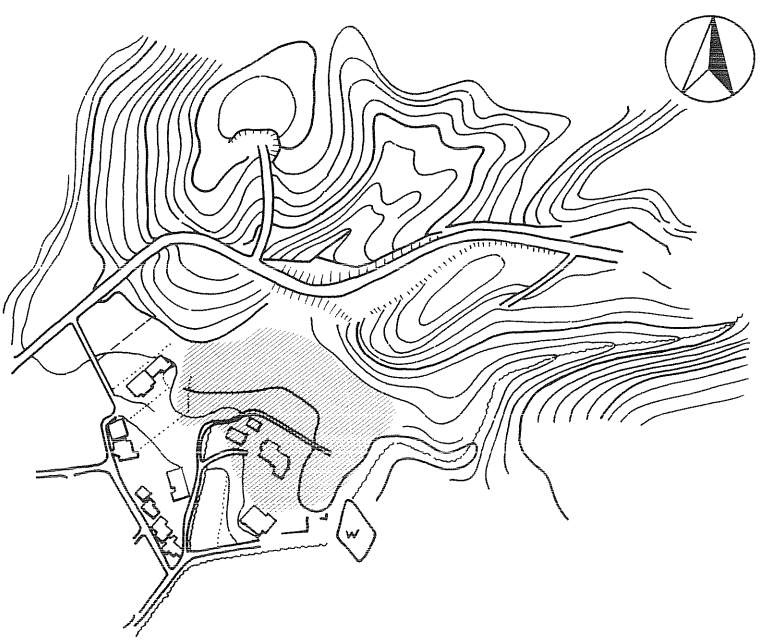
$$S = \frac{27}{125,000}$$

第６図　遺跡と周辺地形（No.３、No.４）

No. 5 ▶

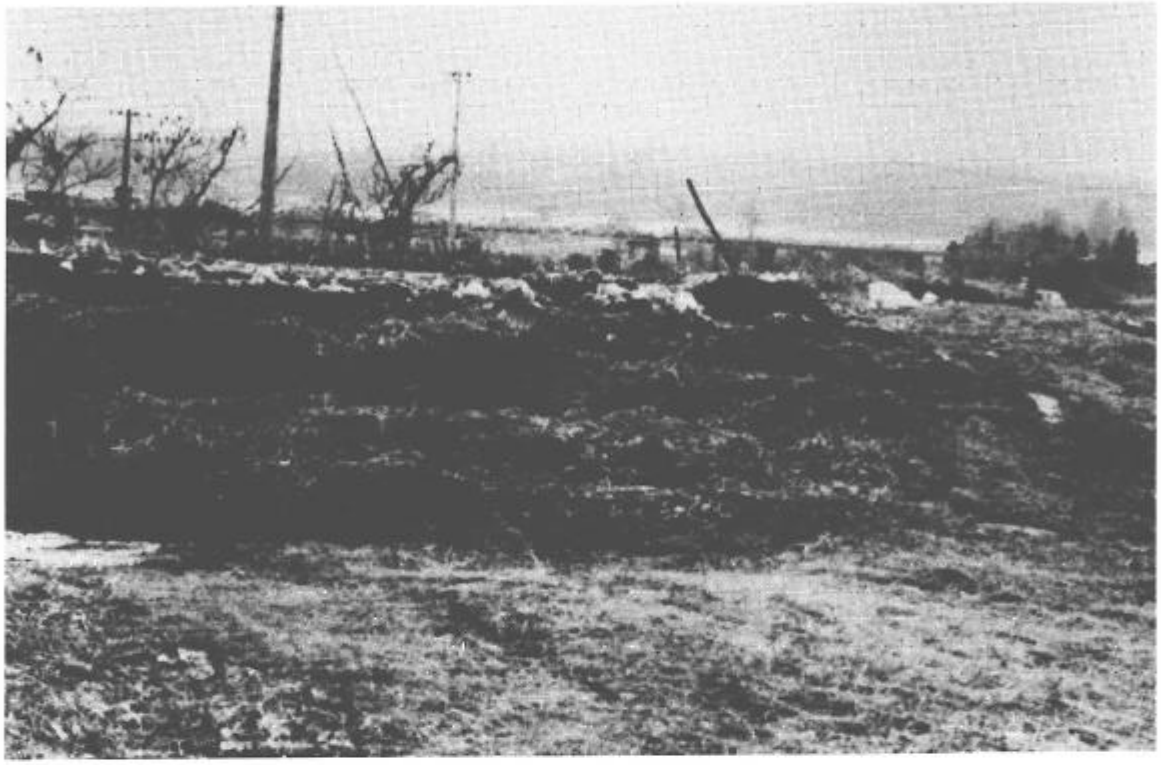


No. 6 ▶



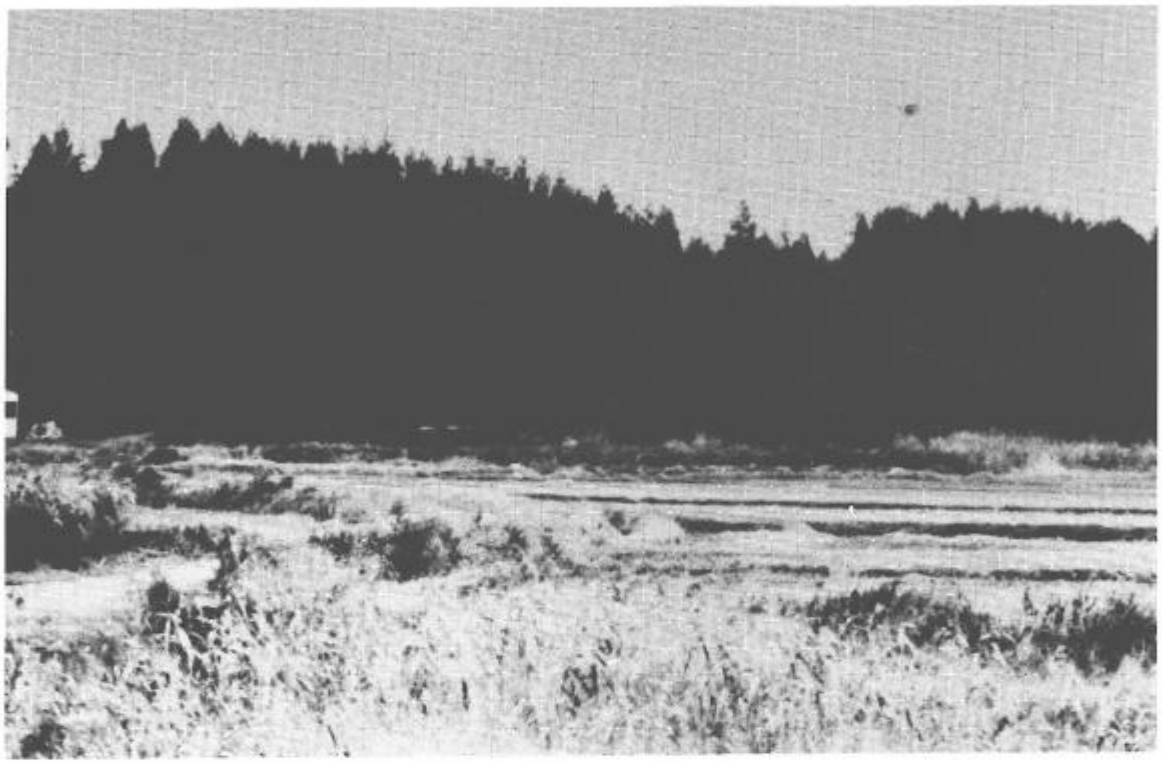
$$S = \frac{27}{125,000}$$

第７図　遺跡と周辺地形（No. 5 、No. 6 ）

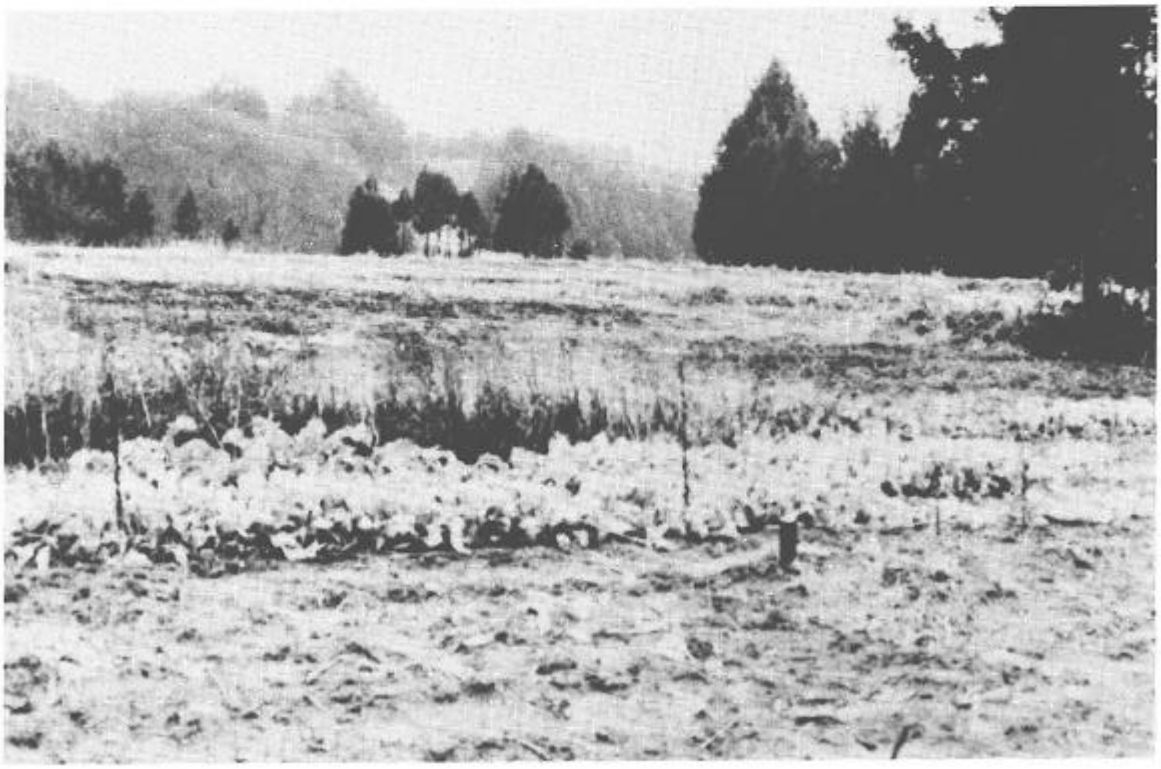


刈和野バイパスNo. 1 地点現況

刈和野バイパスNo. 2 地点現況



刈和野バイパスNo. 6 地点（台地下から望む）



刈和野バイパスNo. 6 地点現況

東北横断自動車道秋田線協和インターチェンジ関係

1．調査期間

昭和59年７月30日

2．調査担当者

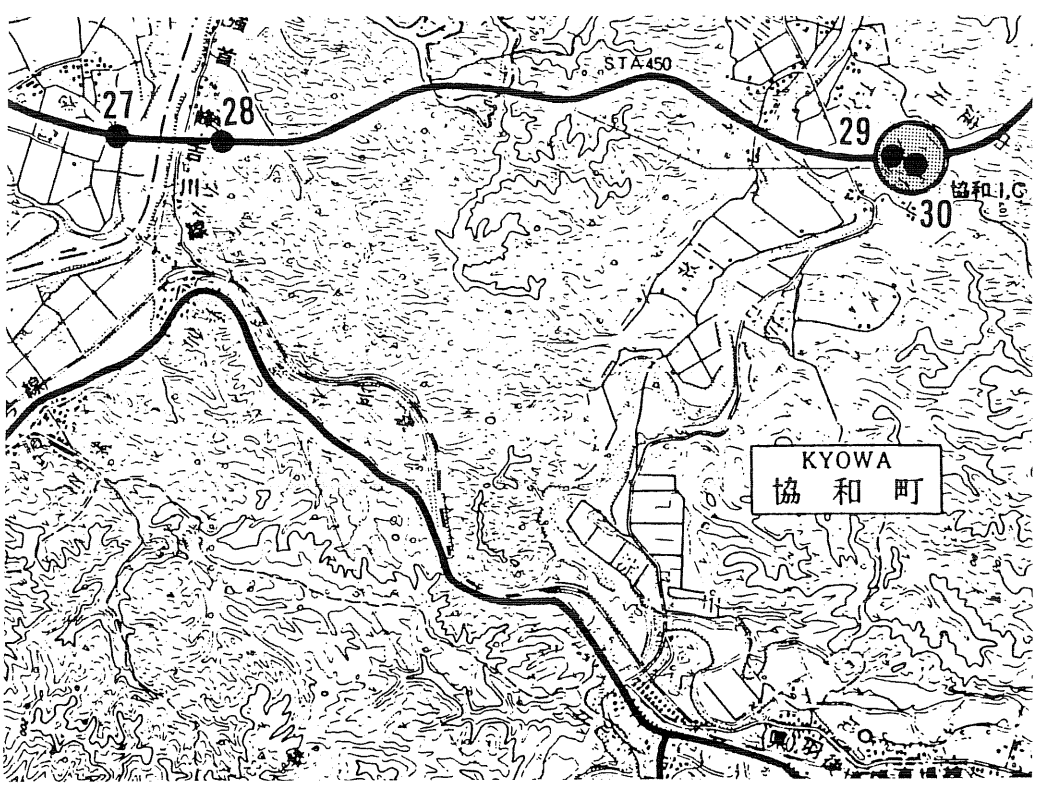
大野　憲司

3．確認遺跡

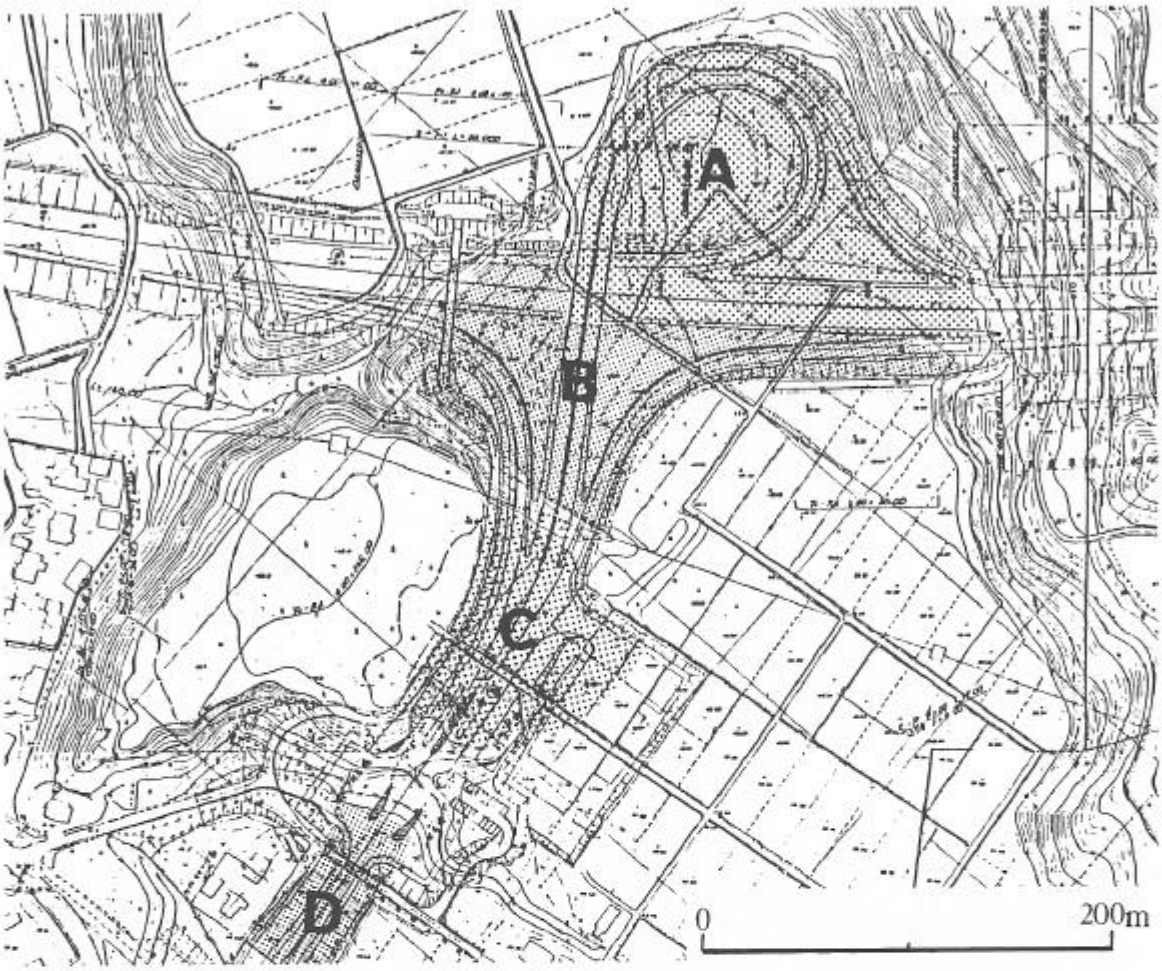
上ノ山Ⅱ遺跡（Ａ）……仙北郡協和町中淀川字千着上ノ山

館野遺跡（Ｃ）……仙北郡協和町中淀川字館野

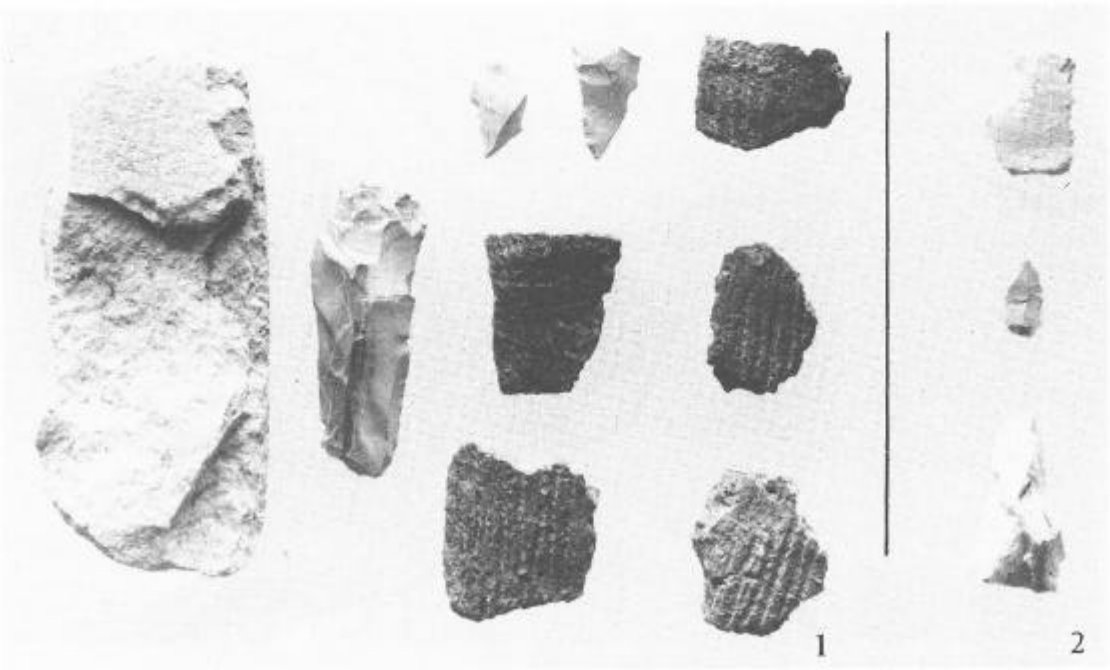
確認した遺跡はＡ、Ｃの２か所である。Ｂ、Ｄについては試掘等を行えなかったので遺跡であるか否か不明である。Ａからは縄文時代前期の土器片と石器（次ページ写真の１）、Ｃからは縄文時代の石器と土器小破片が出土している。



第８図　協和インターチェンジ内遺跡位置図　Ｓ＝1／50,000



第９図　遺跡範囲図



出土遺物

遺 跡 遠 景

第2節　遺跡範囲確認調査

1．東北横断自動車道秋田線

(1)　調査地区の概要

東北横断自動車道秋田線関係の遺跡分布調査は、昭和58年度までにほとんど終了しており、本年度の河辺町地区の範囲確認調査は、その結果をふまえて実施したものである。

河辺町地区の路線は、雄物川の一支流である岩見川中流左岸の河辺町戸島及び松渕地区の段丘（七曲台）上に位置し、台丘のほぼ南・西端部を通過する。その路線上には松木台Ⅲ遺跡、石坂台Ⅳ～Ⅸ遺跡の7遺跡が所在する。

岩見川左岸は河岸段丘の発達が顕著で、七曲台では下段から赤平面、新大張野面、古大張野面、椿台面、高位Ⅲ面と呼ばれる段丘面がある。(註) 遺跡は下位から2番目の新大張野面に松木台Ⅲ遺跡（標高約40m）、3番目の古大張野面に石坂台Ⅷ・Ⅸ遺跡（標高約45m）、4番目の椿台面に石坂台Ⅳ～Ⅶ遺跡（標高約60m）がそれぞれのっている。遺跡の現況は松・杉林が大部分で、他に畑地、牧草地がありほとんど平坦面となっている。

本路線の北隣に七曲臨空港工業団地がある。ここには旧石器時代から古代に至る12の遺跡があって、昭和58・59年度の2ヶ年にわたって発掘調査が行われた。

註　室田　弘「岩見川流域の地形発達について――とくに段丘地形の考察を中心として」秋田県教育研究所年報

(2)　調査の概要と結果

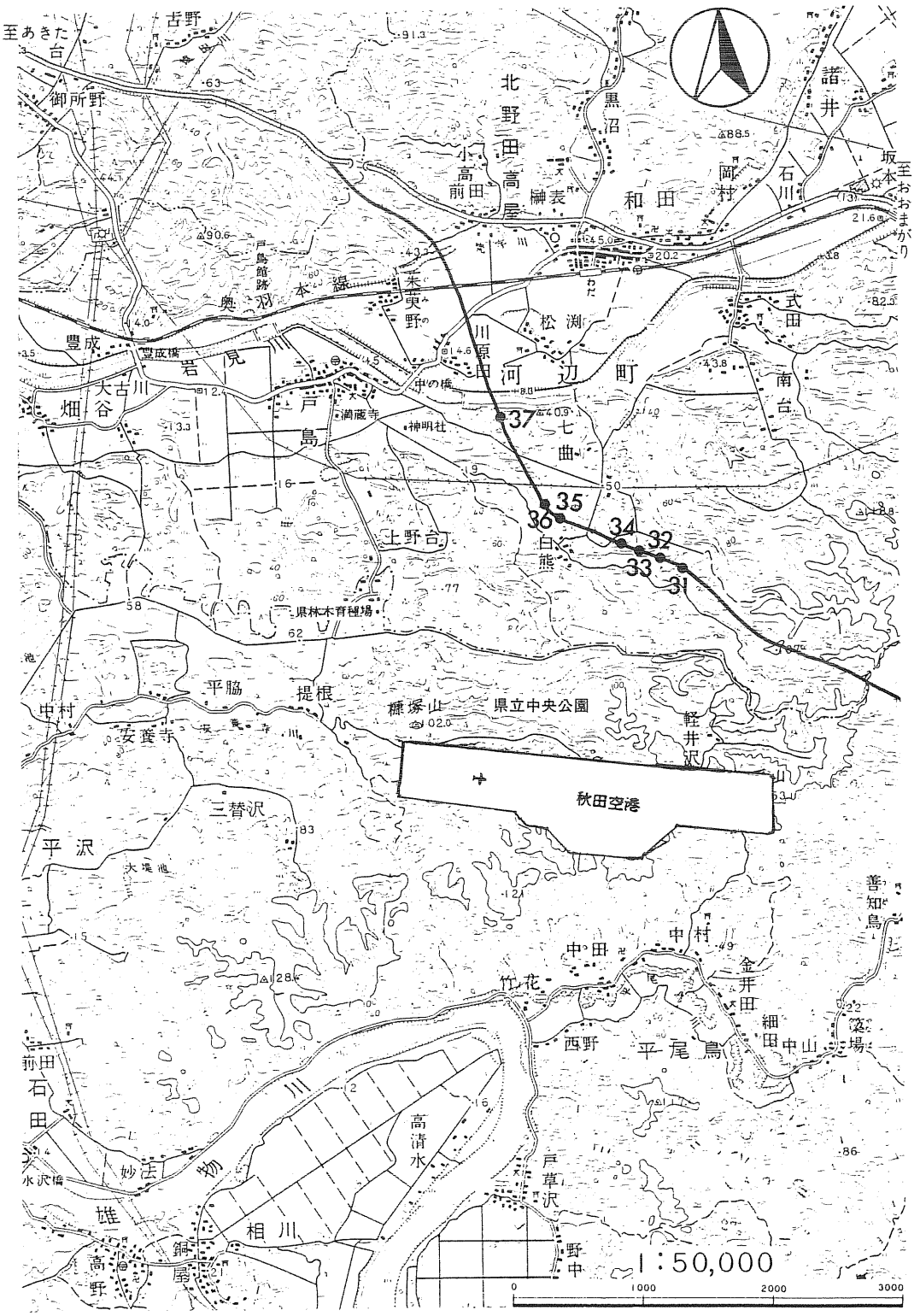
調査期間　　昭和59年9月11日～9月28日

担当者　　柴田　陽一郎　　小林　　克

第1表　東北横断自動車道秋田線河辺町地区範囲確認調査遺跡地名表

番号	遺跡名(遺跡番号)	旧遺跡名	所在地	路線内面積	時代
1	石坂台Ⅳ（No.31）	石坂台Ⅰ	河辺郡河辺町戸島字七曲石坂台271他	2,000m²	縄文
2	石坂台Ⅴ（No.32）	石坂台Ⅱ	河辺郡河辺町戸島字七曲石坂台247他		縄文
3	石坂台Ⅵ（No.33）	石坂台Ⅲ	河辺郡河辺町戸島字七曲石坂台233他	2,640m²	縄文
4	石坂台Ⅶ（No.34）	石坂台Ⅳ	河辺郡河辺町戸島字七曲石坂台214他	4,000m²	縄文
5	石坂台Ⅷ（No.35）	石坂台Ⅴ	河辺郡河辺町戸島字七曲石坂台168-3他	6,880m²	縄文
6	石坂台Ⅸ（No.36）	石坂台Ⅵ	河辺郡河辺町戸島字七曲台285-1	4,768m²	縄文
7	松木台Ⅲ（No.37）	松木台	河辺郡河辺町松渕字松木台57他	7,960m²	旧石器・縄文 平安

（付記）上表に新旧の遺跡名があるが、これは分布調査の際に定めた遺跡名が、隣接の七曲臨空港工業団地内の遺跡名と重複しているため改正したものである。今後はこれを正式名とする。



第10図　東北横断自動車道路線上の遺跡位置図

石坂台Ⅳ遺跡（遺跡No.31）

1．遺跡の立地と現況

遺跡は台地の南東端に位置し、標高は約61ｍである。遺跡の東西には谷が入り込んで、南は急斜面となり、下には沖積地が広がる。比高差は20～25ｍである。遺跡現況は、縁辺部に松林や雑木林があり、中央の平坦部は牧草地となっている。遺跡の中央からやや西寄りに農道が横断している。

2．範囲・時代・性格

出土遺物は、縄文時代の石器類で、剥片、掻器などである。検出遺構は、焼土、炭化材の詰った土壙である。

3．土　層（深さ）

遺跡の基本土層は第Ⅰ層から第Ⅲ層までである。第Ⅰ層黒褐色土は牧草地造成の際に既に削平されており、第Ⅱ層暗褐色土が20～25cmあるだけで第Ⅲ層黄褐色粘質土（地山）となる。

石坂台Ⅴ遺跡（遺跡No.32）

1．遺跡の立地と現況

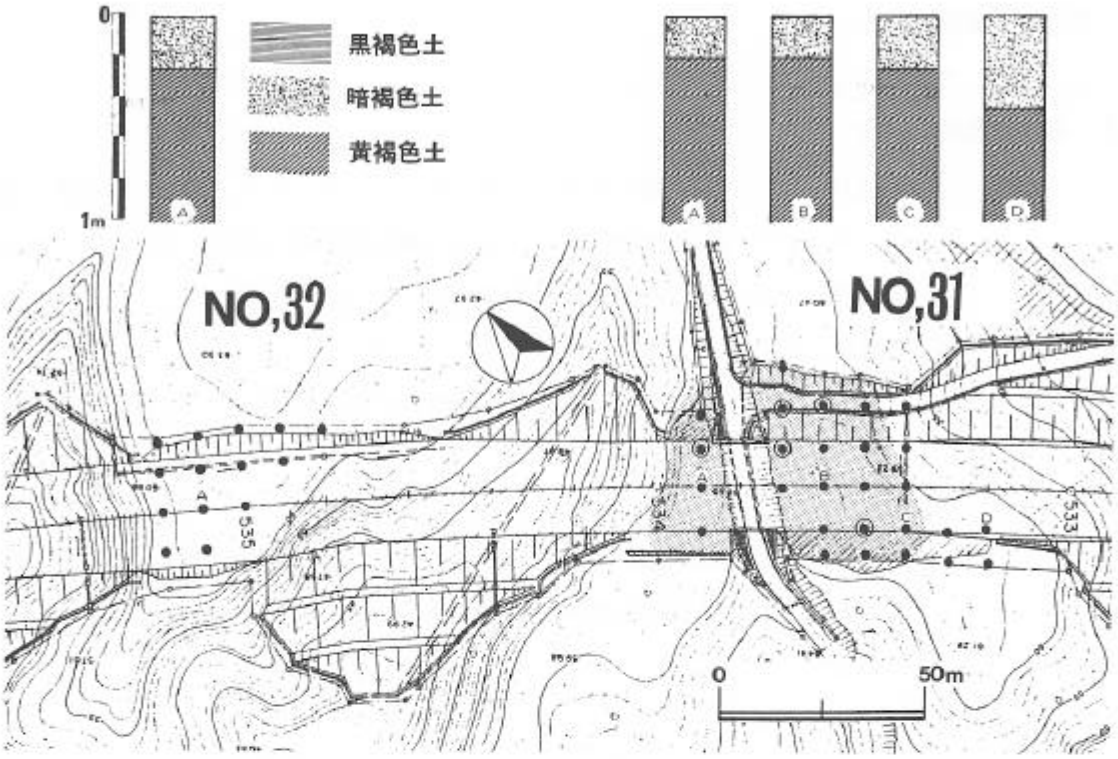
遺跡は台地の南東端に位置し、西と東に谷が入り込み、北から南にわずかに傾斜している。遺跡地内の標高は約60ｍで、今回の調査地は南側に舌状に張り出した部分である。現況は牧草地となっている。

2．範囲・時代・性格

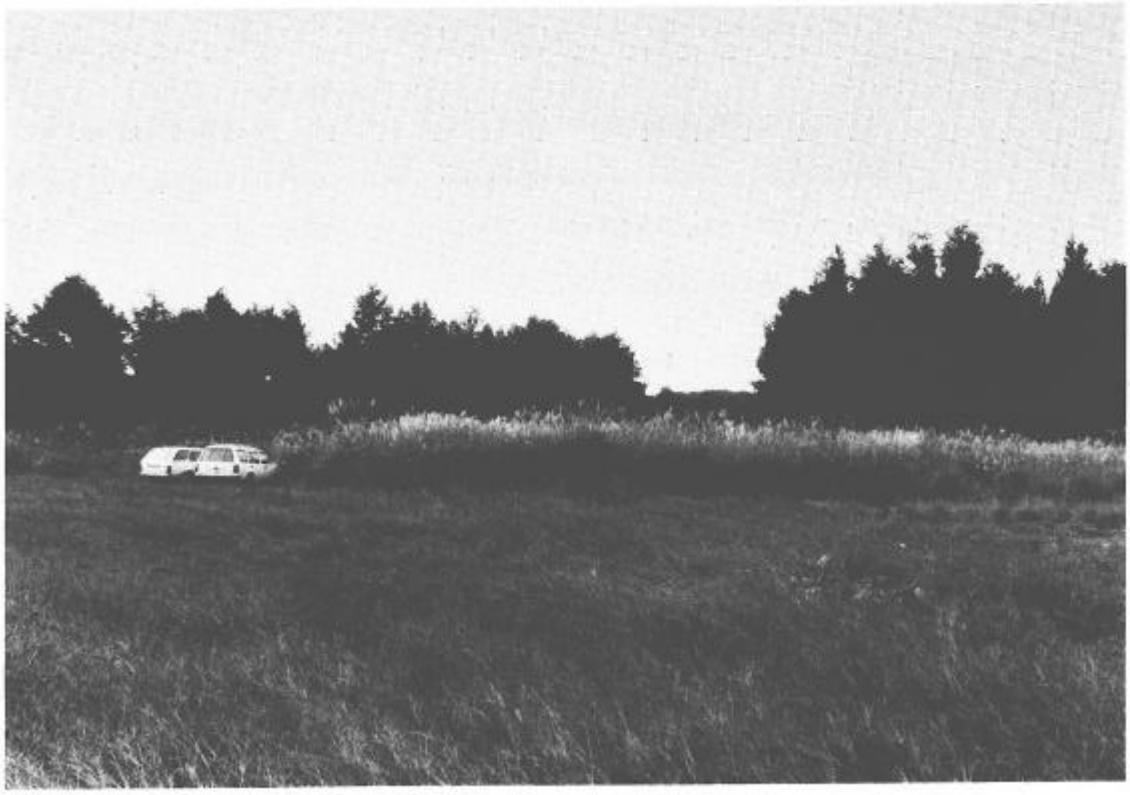
分布調査では、遺跡の範囲内に入っていたが、調査の結果、遺構は検出されず遺物も出土しなかったので、この部分は遺跡から除かれる。したがって路線内の発掘調査は不要となる。

3．土　層（深さ）

遺跡の基本土層は第Ⅰ層から第Ⅲ層までである。第Ⅰ層黒褐色土は牧草地造成の際に既に削平されており、第Ⅱ層暗褐色土が層厚25cmで第Ⅲ層黄褐色粘質土（地山）となる。



第11図　調査個所、現況図（○印－遺構検出または遺物出土地点）



石坂台Ⅳ遺跡　現況（北から）

石坂台Ⅵ遺跡（遺跡No.33）

1．遺跡の立地と現況

遺跡は台地の南東端に位置し、西と東に谷が入り込み、南側は緩斜面となる。遺跡地内の標高は約61ｍで、今回の調査対象地は南側に舌状に張り出した所である。現況は杉林と畑地である。

2．範囲・時代・性格

調査の結果、南西端から縄文時代の磨製石斧が出土した。畑地部分は耕作物があったので調査できなかった。

3．土　層（深さ）

遺跡の基本土層は第Ⅰ層から第Ⅲ層までである。第Ⅰ層黒褐色土は既に削平されており、第Ⅱ層暗褐色土が層厚10～25cmで第Ⅲ層黄褐色粘質土(地山)となる。

石坂台Ⅶ遺跡（遺跡No.34）

1．遺跡の立地と現況

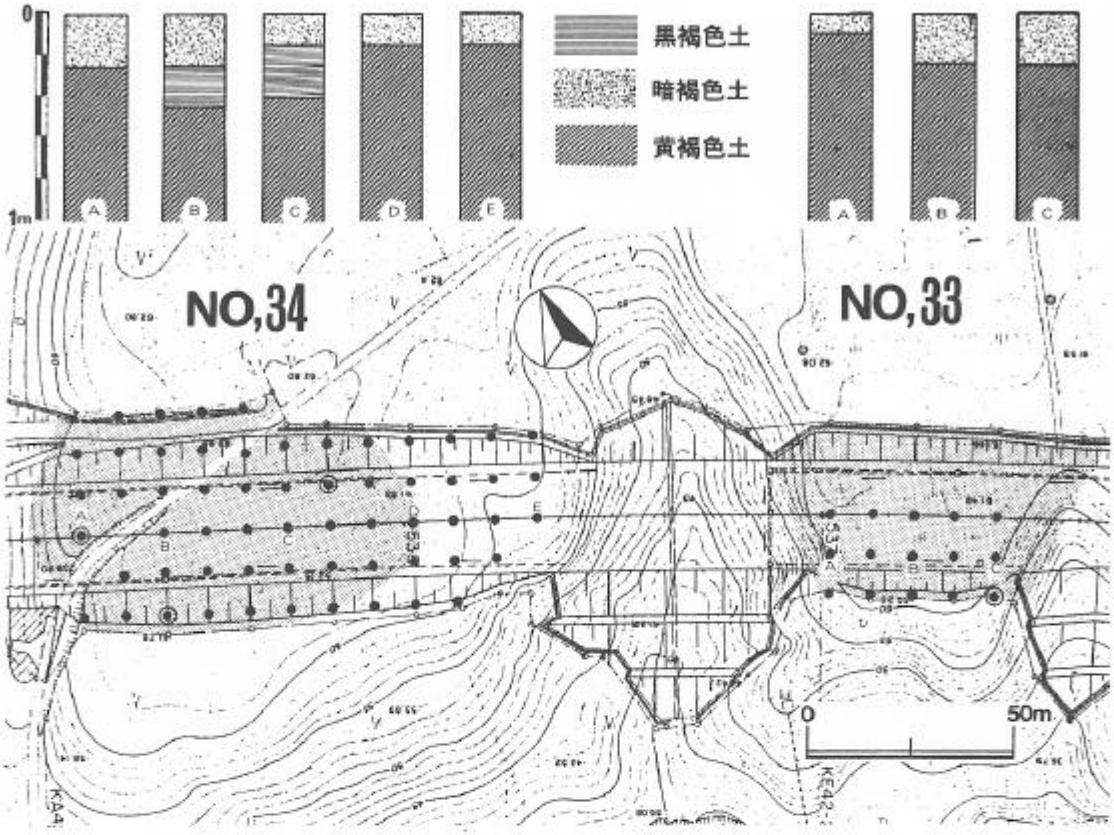
遺跡は台地の南東端に位置し、東に谷が入り込み、南は比高差20ｍほどの急斜面となる。遺跡地内の標高は約61ｍである。北西には遺跡を分断する農道が走り、その西は比高差10ｍほどの斜面で、一段低い段丘面となる。現況は杉林で、地形は平坦である。

2．範囲・時代・性格

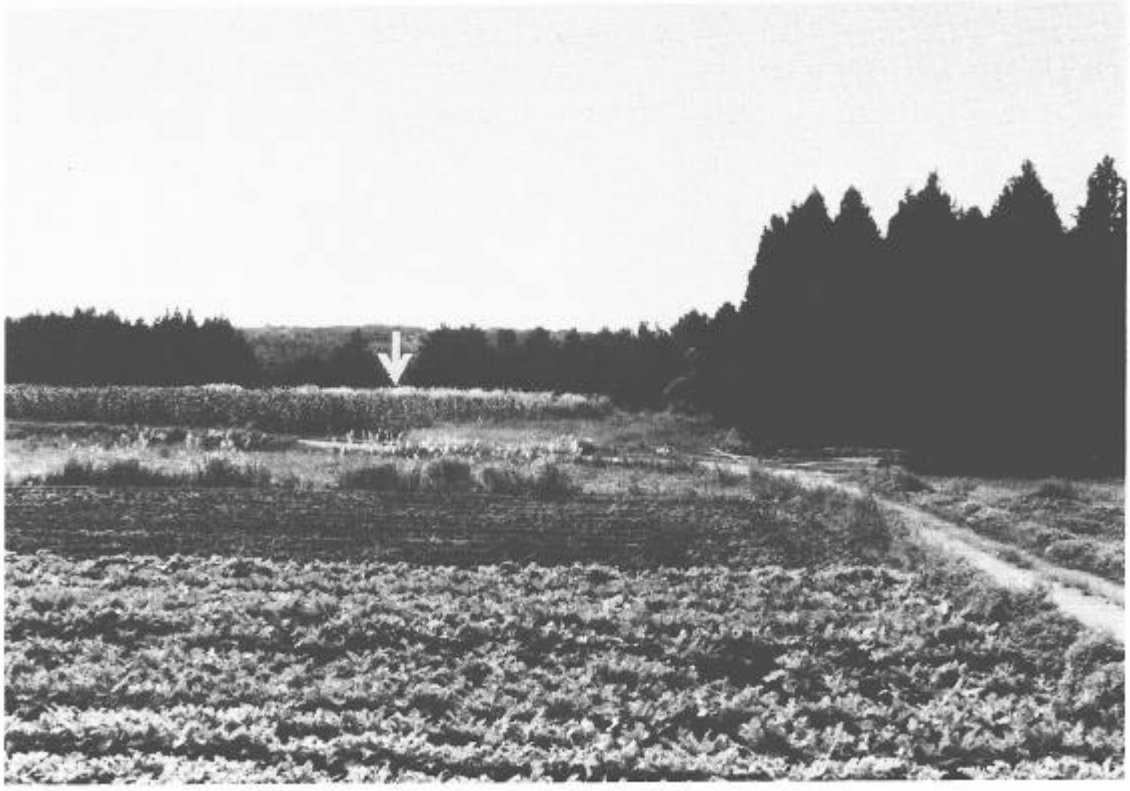
遺物は縄文時代の土器が出土し、遺構は同じ縄文時代と考えられる３基の土壙である。

3．土　層（深さ）

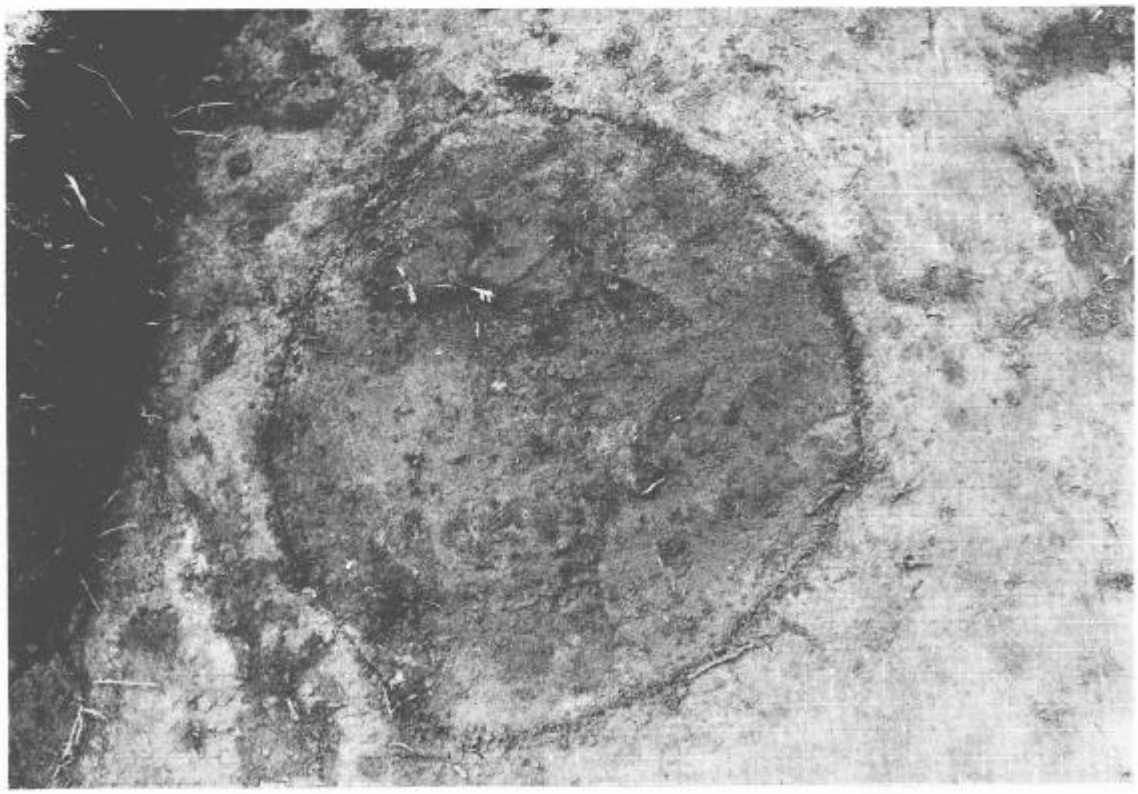
遺跡の基本土層は第Ⅰ層から第Ⅲ層までである。第Ⅰ層黒褐色土は層厚15～25cm、第Ⅱ層暗褐色土は20～25cmで第Ⅲ層黄褐色粘質土（地山）に達するが、第Ⅱ層が部分的にない所もある。



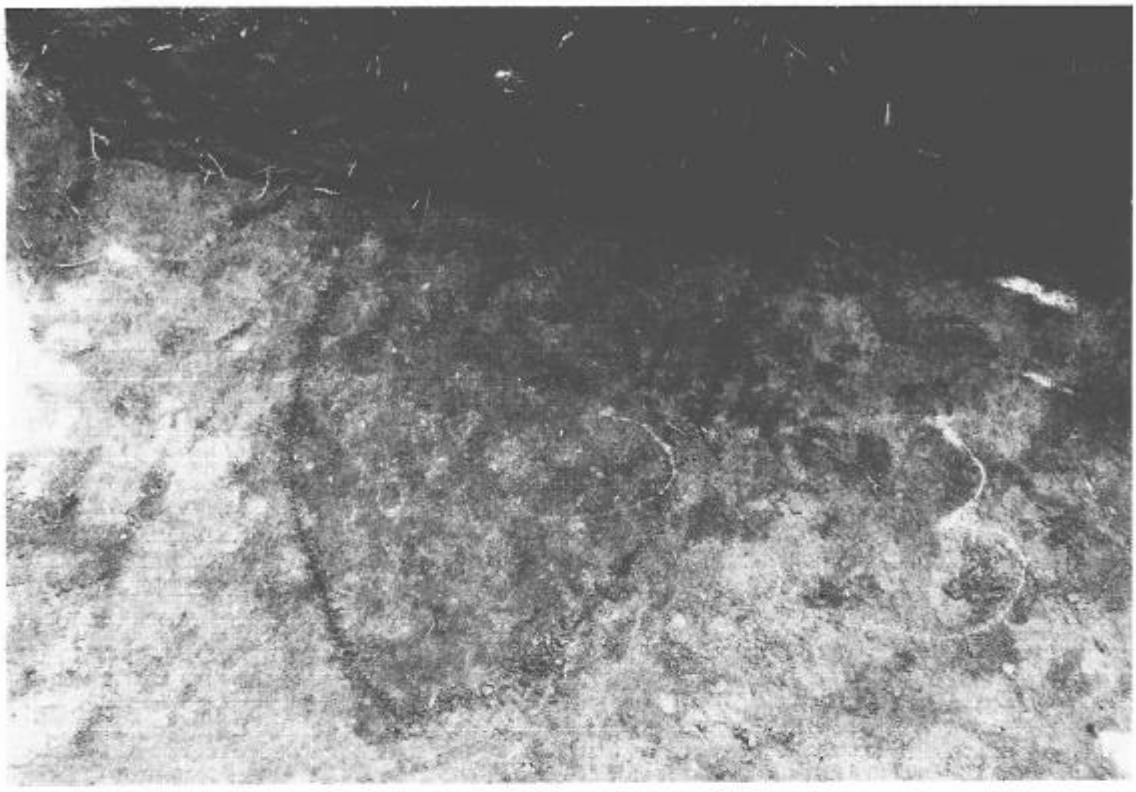
第12図　調査個所、現況図（○印－遺構検出または遺物出土地点）

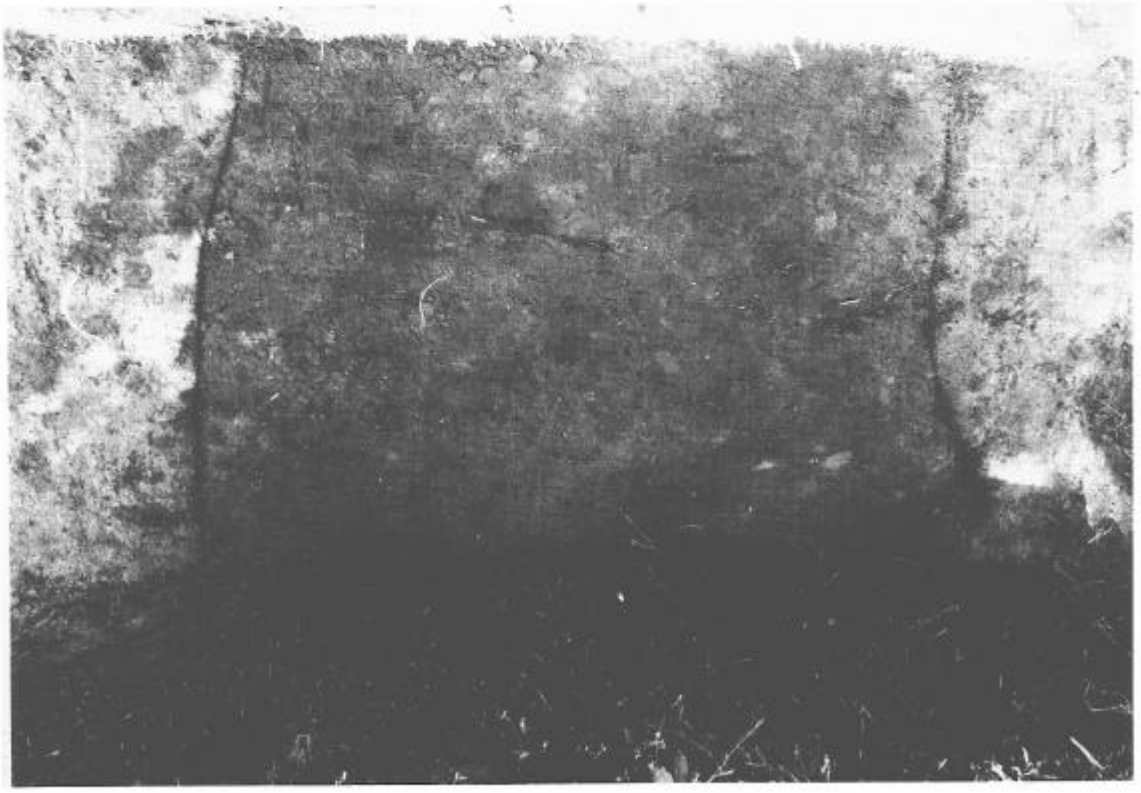


石坂台Ⅵ遺跡　現況（北から）



石坂台Ⅶ遺跡　上　遠景（北から）
　　下　土壙検出状況





石坂台Ⅶ遺跡　上　土壙検出状況
下　同　上

石坂台Ⅷ遺跡（遺跡No.35）

1．遺跡の立地と現況

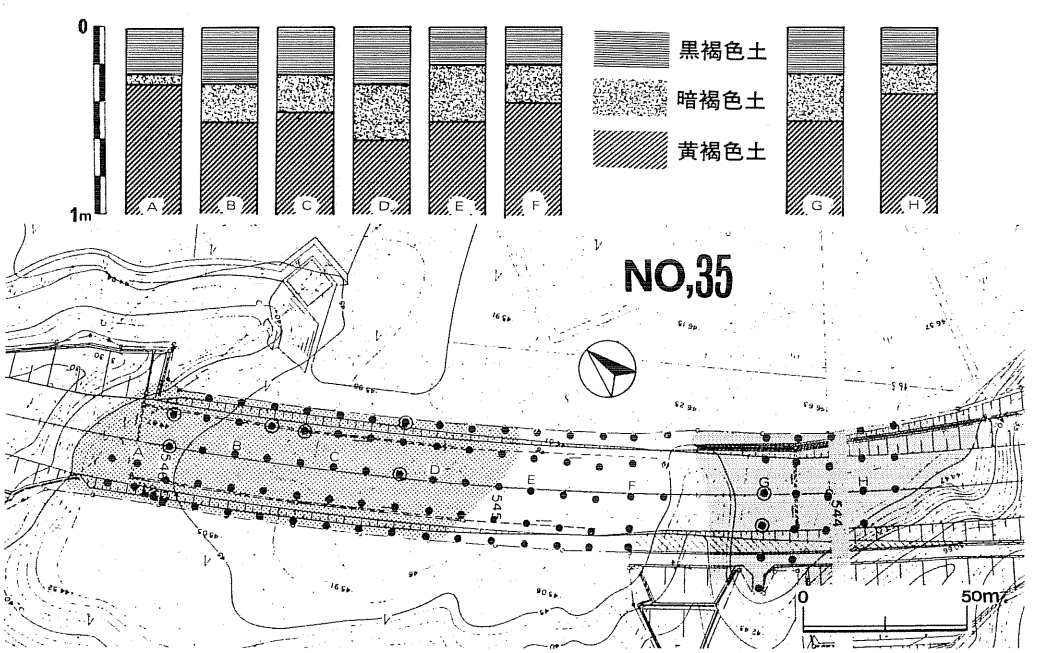
遺跡は台地の北端に位置し、南東と北西に比高差15～20ｍの谷が入り込み南西は急斜面となる。遺跡地内の標高は約46ｍである。現況は杉、雑木林となっており、平坦である。

2．範囲・時代・性格

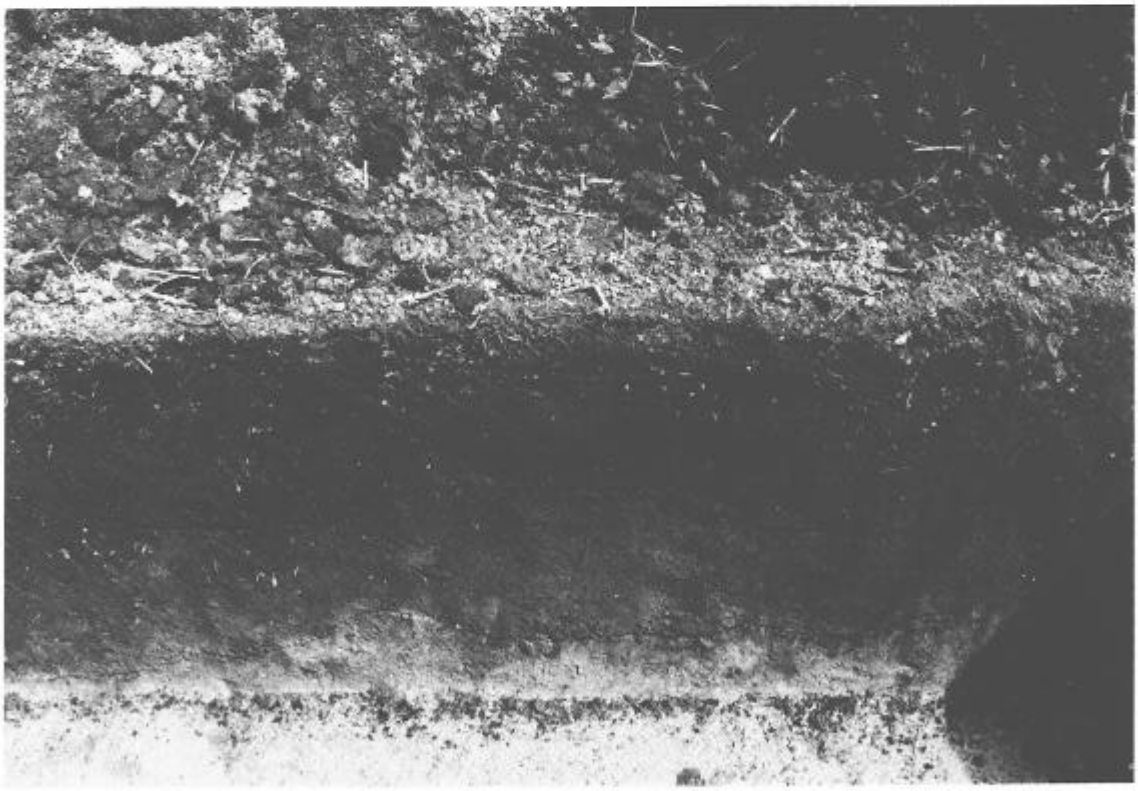
調査の結果、出土遺物は西側で縄文時代の石匙、土器が出土し、西端で２基の土壙を検出した。東側では小沢を隔てて舌状に張り出した所で、縄文時代の土器が出土した。中央部で遺構、遺物は確認されなかった。したがって路線内の調査地点は西と東の２ヶ所に分かれる。

3．土　層（深さ）

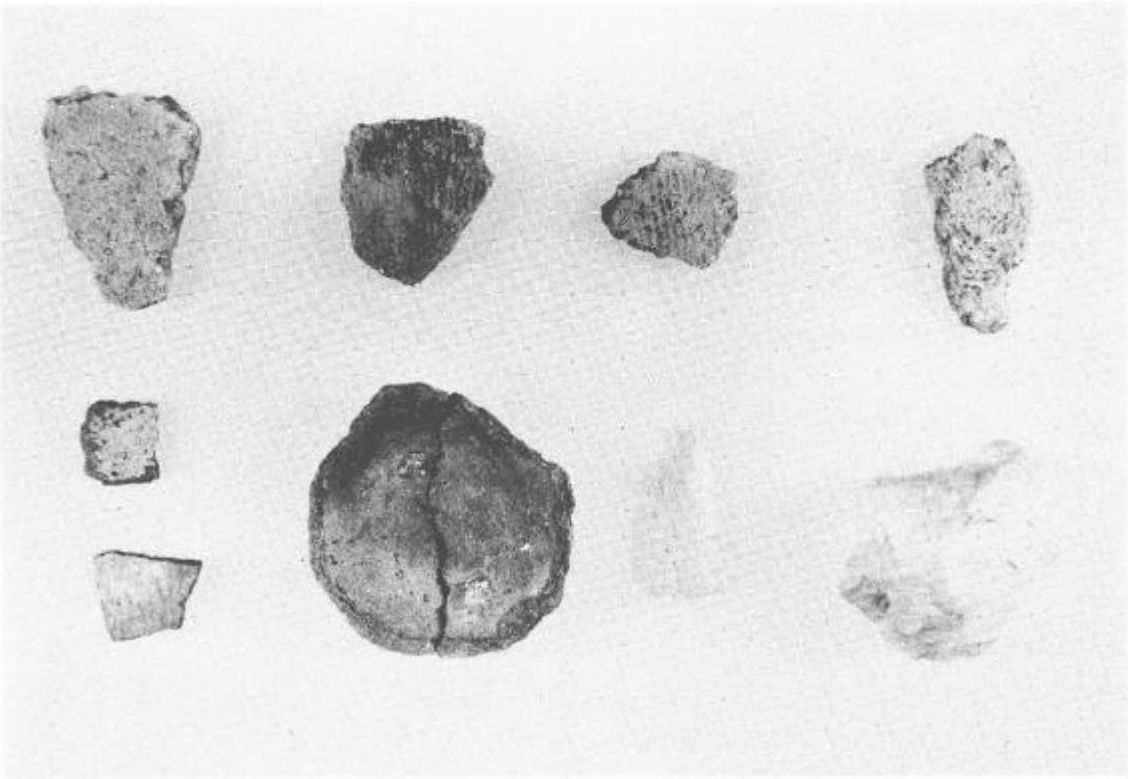
遺跡の基本土層は第Ⅰ層から第Ⅲ層までである。第Ⅰ層黒褐色土が層厚20～30cm、第Ⅱ層暗褐色土が５～30cmで第Ⅲ層黄褐色粘質土（地山）となる。路線内の東側にある沢地に近い部分では第Ⅲ層は灰褐色となる。



第13図　調査個所、現況図（○印－遺構検出または遺物出土地点）



石坂台Ⅷ遺跡　上　調査風景
　　下　土層堆積状況



石坂台Ⅷ遺跡　上　土壙検出状況
　　下　出土遺物

石坂台Ⅸ遺跡（遺跡No.36）

1．遺跡の立地と現況

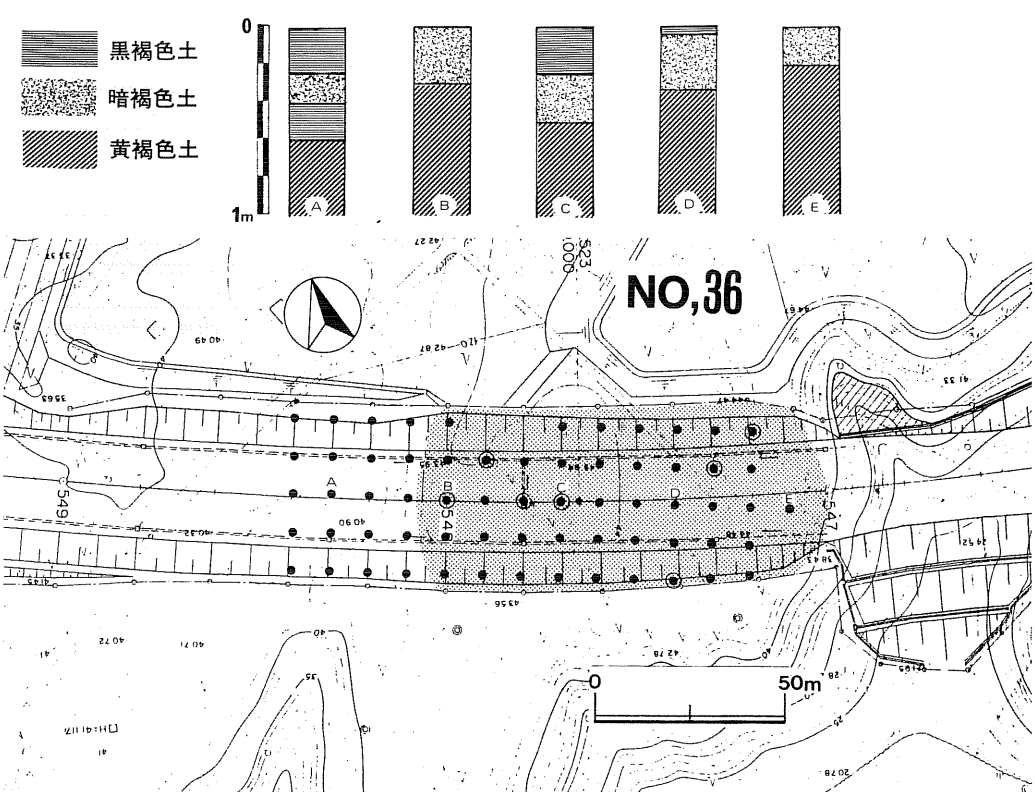
遺跡は台地の北西端に位置し、北から東に比高差18mほどの谷が入り込み、南西では緩斜面となり、1段低い段丘面に至る。遺跡地内の標高は約43mである。現況は杉林、原野で、平坦である。

2．範囲・時代・性格

調査の結果、遺物は縄文時代の土器や石器の剥片が出土し、遺構は土壙2基を検出した。

3．土　層（深さ）

遺跡の基本土層は第Ⅰ層から第Ⅲ層までである。第Ⅰ層黒褐色土が層厚20～25cm、第Ⅱ層暗褐色土が15～30cmで第Ⅲ層黄褐色粘質土（地山）となる。西の斜面下で第Ⅲ層は灰褐色となり、湧水もある。



第14図　調査個所、現況図（○印－遺構検出または遺物出土地点）

石坂台Ⅸ遺跡　上　遠景（東から）
　　下　土壙検出状況

松木台III遺跡（遺跡No.37）

1．遺跡の立地と現況

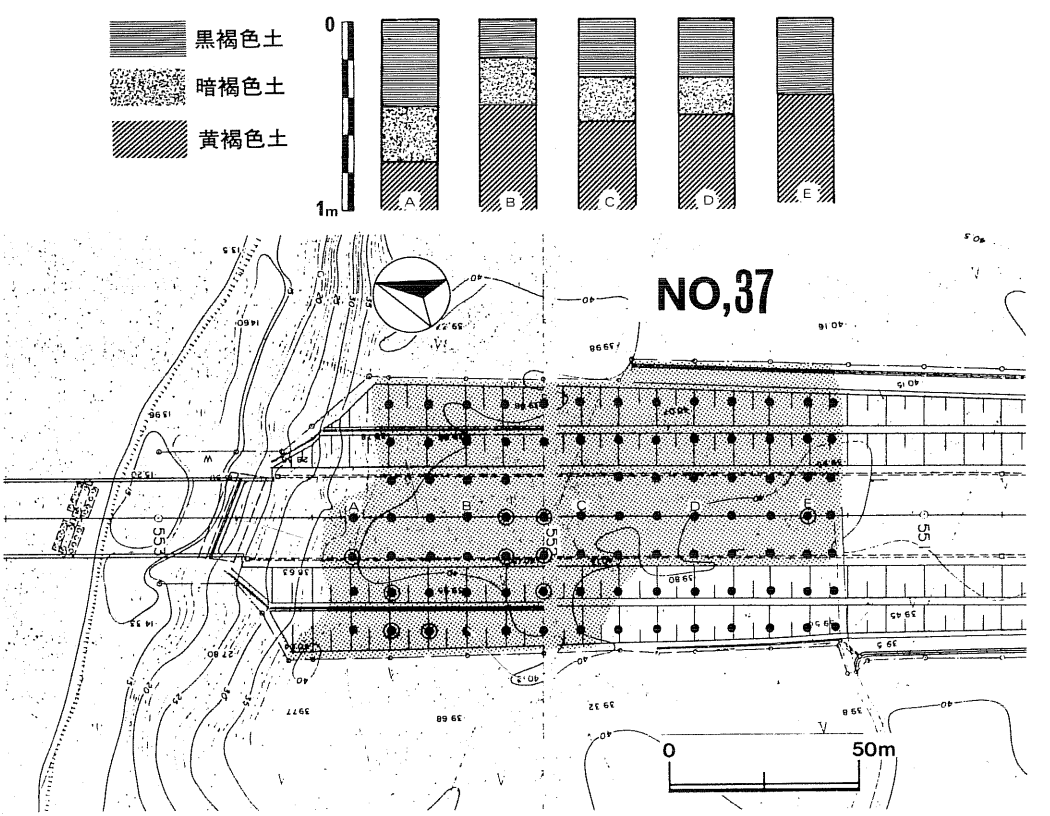
遺跡は台地の西端に位置し、北は比高差26mほどの急崖となっており、台地の裾を洗うように岩見川が西流する。遺跡地内は標高40mで、現況は杉林で、平坦になっている。

2．範囲・時代・性格

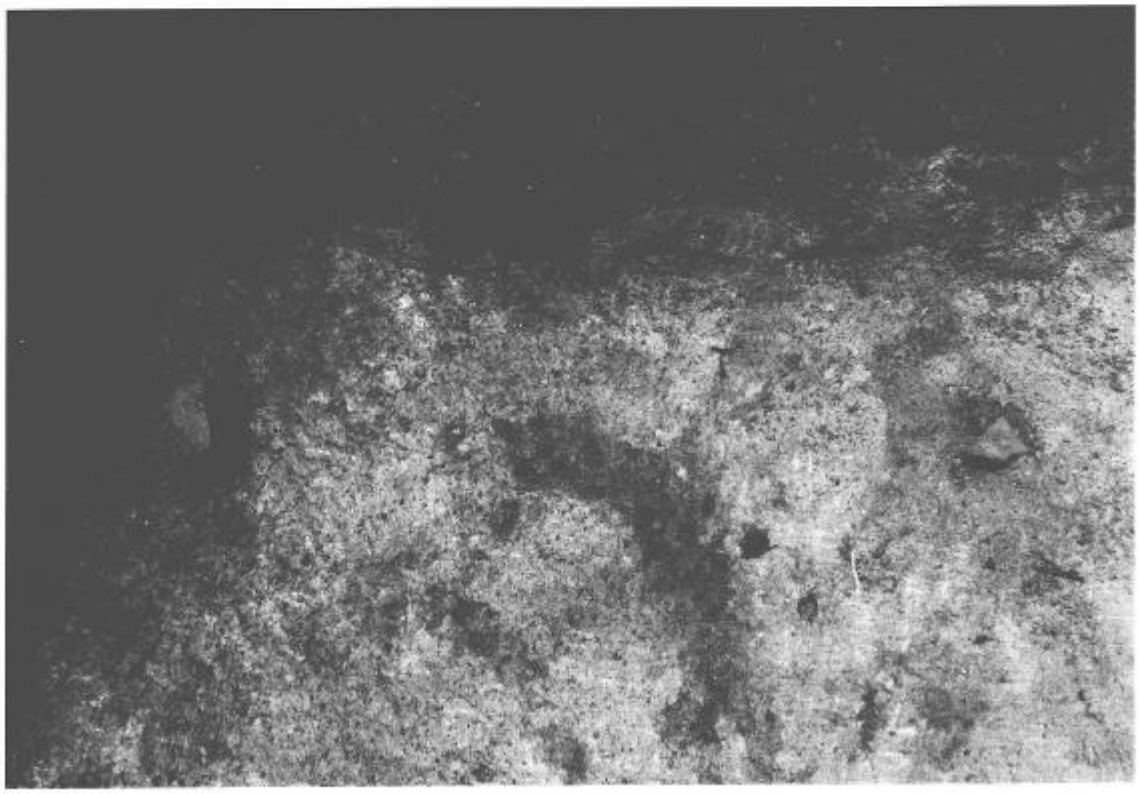
調査の結果、遺物は旧石器を作る際にできた剥片や残核、縄文時代中期の土器の他、平安時代の甕形土師器、杯形黒色土師器が出土した。遺構は平安時代の住居跡（?）1軒、溝1条の他、土壙1基を検出した。

3．土　層（深さ）

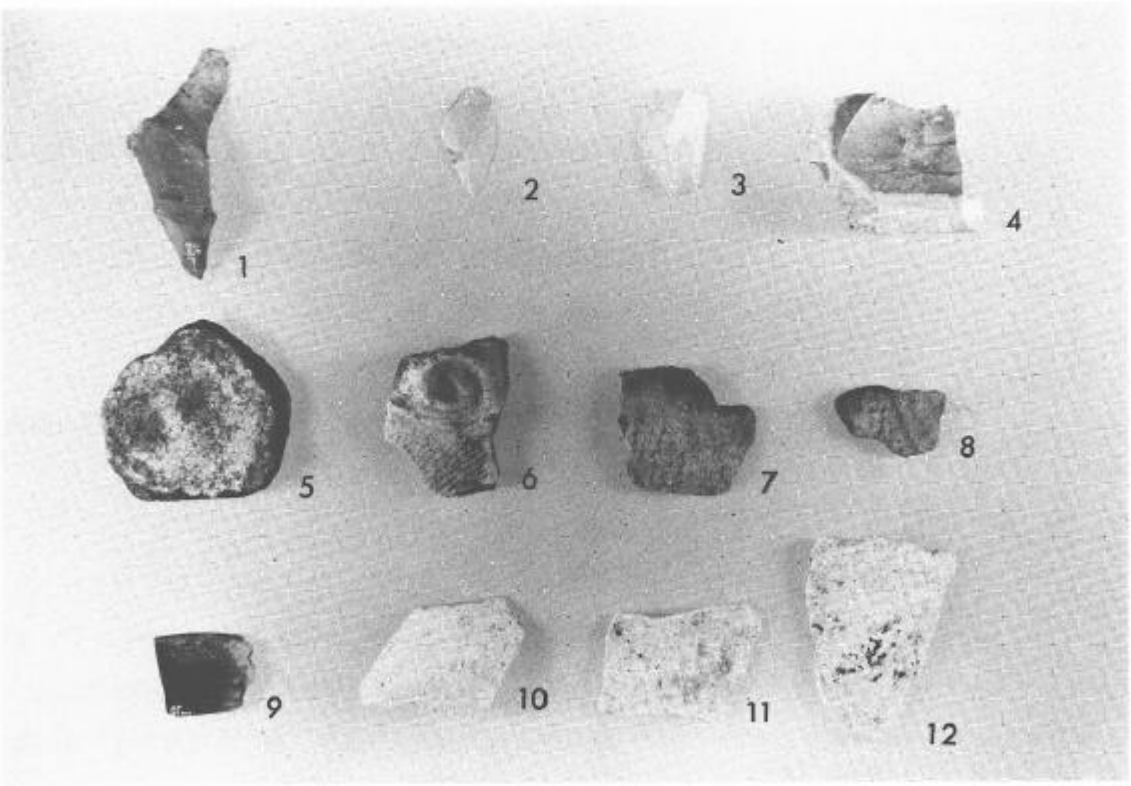
遺跡の基本土層は第I層から第III層までである。第I層黒褐色土が層厚20～45cm、第II層暗褐色土が20～30cmで第III層黄褐色粘質土（地山）となる。南西端では第I層が1m以上の所もあるが、かっては小沢となっていたのであろう。



第15図　調査個所、現況図（○印－遺構検出または遺物出土地点）



松木台III遺跡　上　遠景（北から）
下　旧石器出土状況



松木台III遺跡　上　住居跡（？）内　カマド検出状況
下　出土遺物　1～4 旧石器，5～8 縄文土器
9～12 土師器

県立羽後高等学校建設予定地関係　上谷地中遺跡

1．所 在 地

雄勝郡羽後町大戸字大戸１番地他

2．面　　積

60,917㎡

3．調査期間

昭和59年６月11日～６月30日

4．調 査 者

桜田　　隆、　橋本　高史

5．遺跡の立地と現況

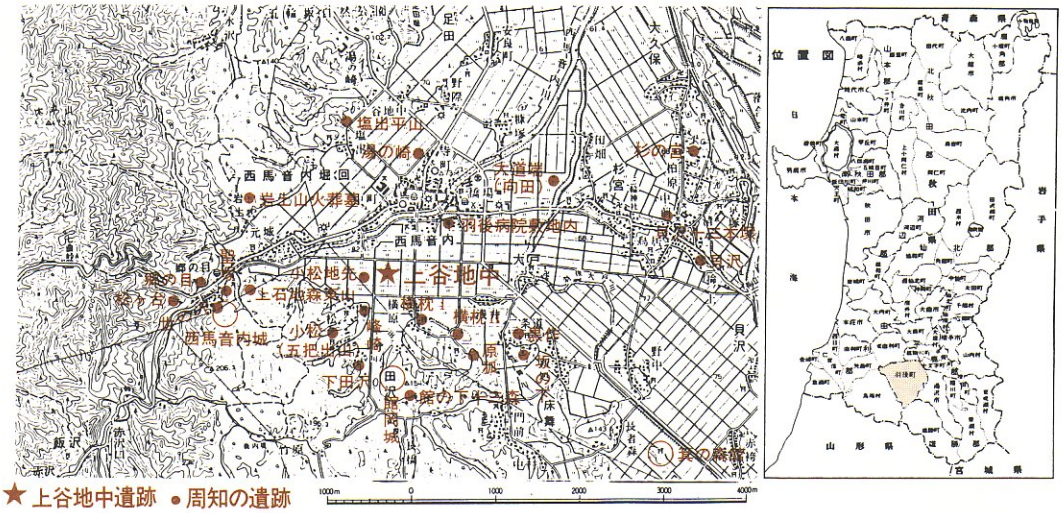
雄物川水系西馬音内川により形成された西馬音内扇状地のほぼ中央部に位置する。標高は約80ｍで東側が若干低くなっている。現況は水田。

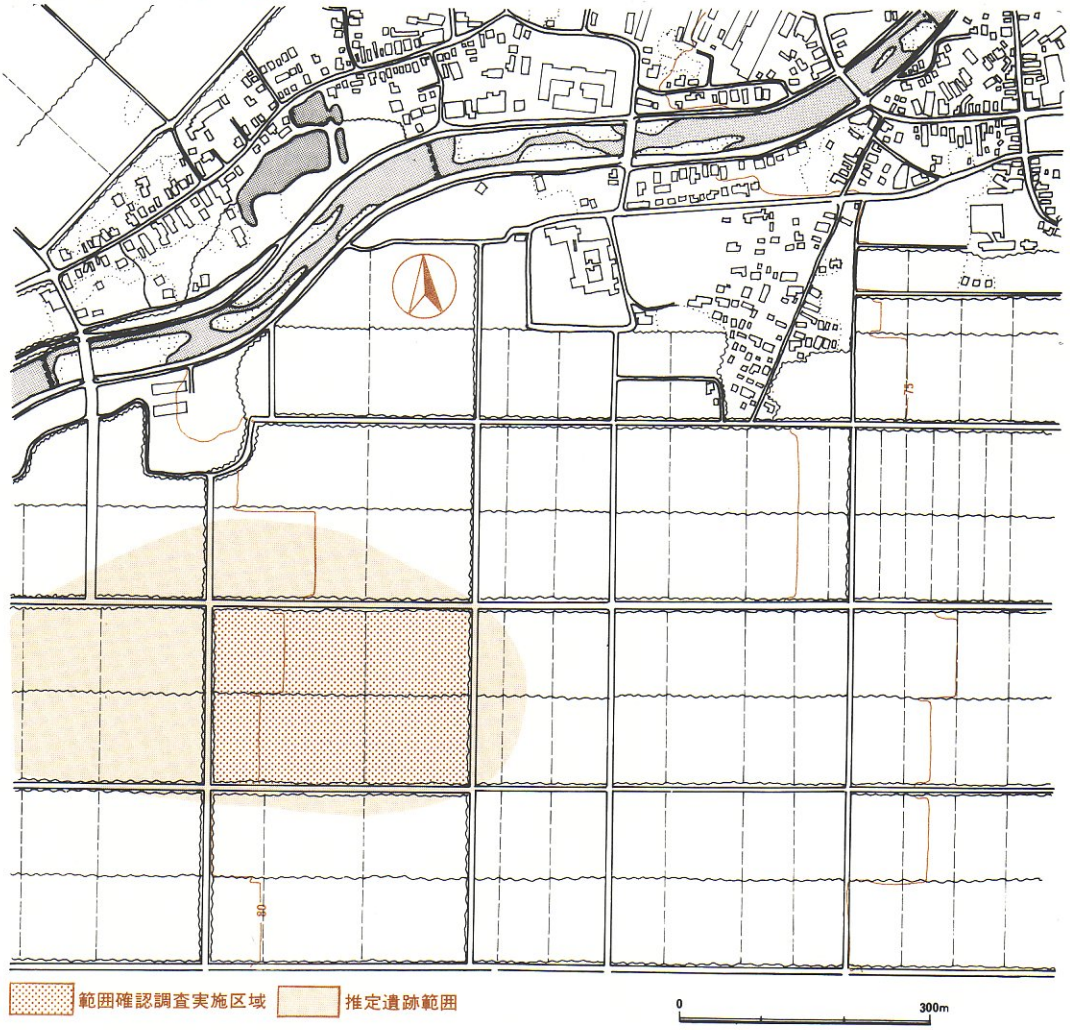
6．範囲・時代・性格

工事予定区域内全域が遺跡であり、その外にも範囲は広がっている。検出遺構は縄文時代中後期の埋甕３基、後期の配石遺構が39基である。埋甕のうち中期に属する２基はその周囲に20㎝程の石が廻らされていた。配石遺構は調査地の北西部から調査地外の10,000㎡の範囲に及んでおり、その一部約700㎡を精査した。配石遺構は巨礫中心のもの（ＳＱ04・23など）と細礫中心のもの（ＳＱ15など）などいくつかのタイプがあり、タイプごとにまとまって分布する。周辺からは後期の土器とともに土偶、石棒、円盤状土製品等が多量に出土した。また、径 105㎝×95㎝、深さ20㎝程の土壙の縁辺部に土器を廻らした遺構も検出された。各時期毎の遺物分布状態は第38図のごとく若干のずれがあり、今回主に発掘した箇所は後期中心の区域である。遺構外遺物は縄文（中～晩期）・弥生・平安時代のものがある。

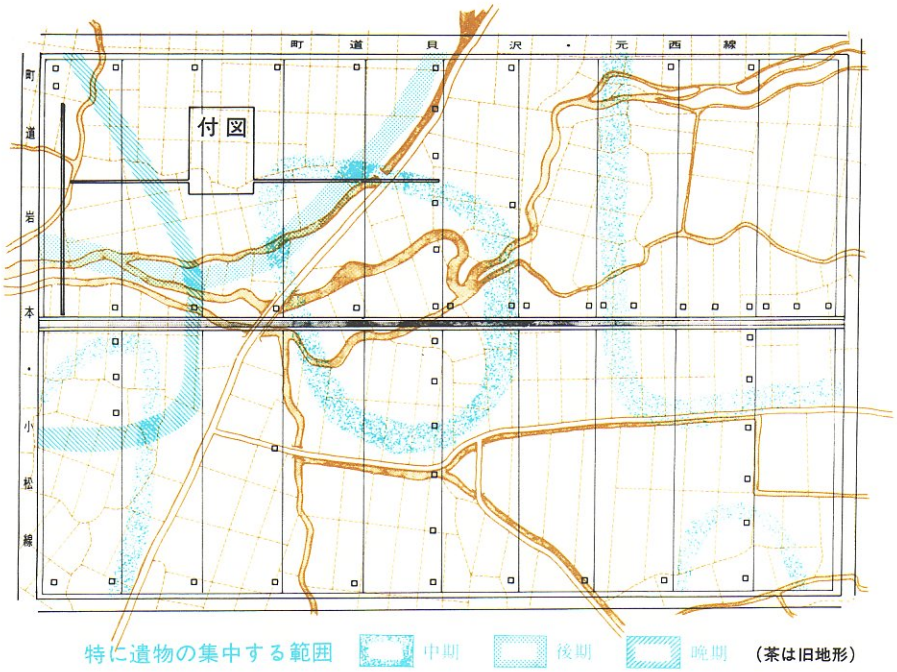
7．地　層（深さ）

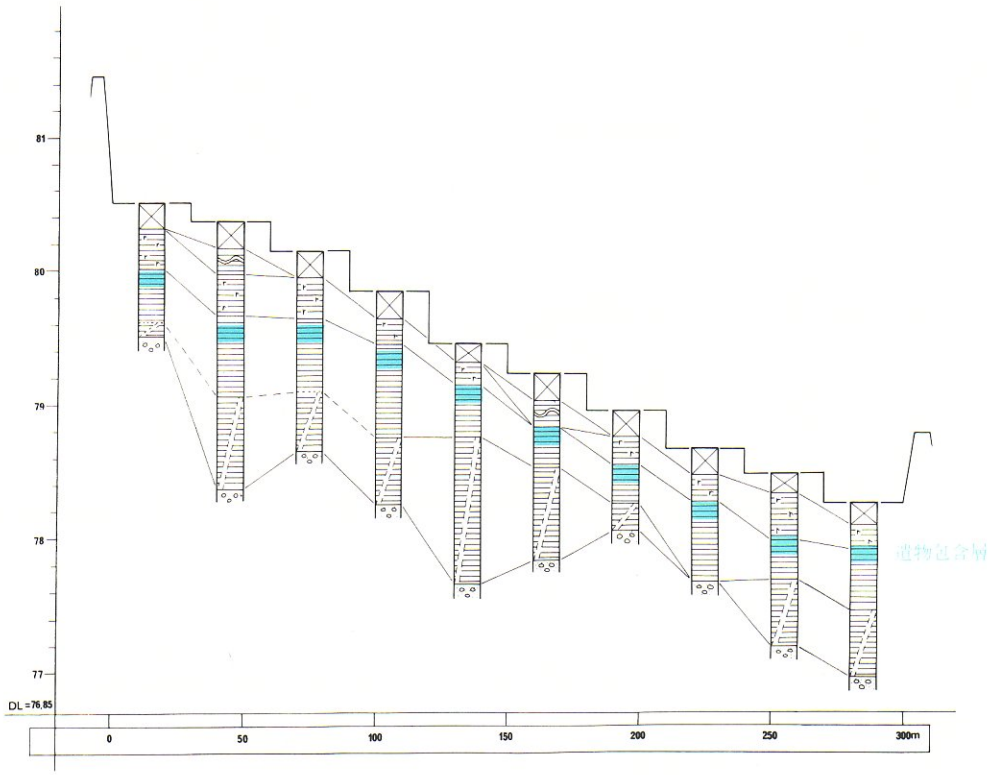
東部はⅠ：耕作土（15～20㎝）、Ⅱ：黒色土（10～15㎝）、Ⅲ：青色粘質土（30～50㎝）縄文中期遺物包含層、Ⅳ：シルト質粘土（30～60㎝）、Ⅴ：砂質粘土（０～80㎝）、Ⅵ：砂礫層。北西部はⅠ：耕作土（10～20㎝）、Ⅱ：青色粘質土（10～20㎝）縄文晩期遺物包含層、Ⅲa：黒色礫混り粘土（30～40㎝）縄文後期遺物包含層、配石遺構検出層、Ⅲ：青色粘質土（40～50㎝）縄文中期遺物包含層、Ⅵ：砂礫層。



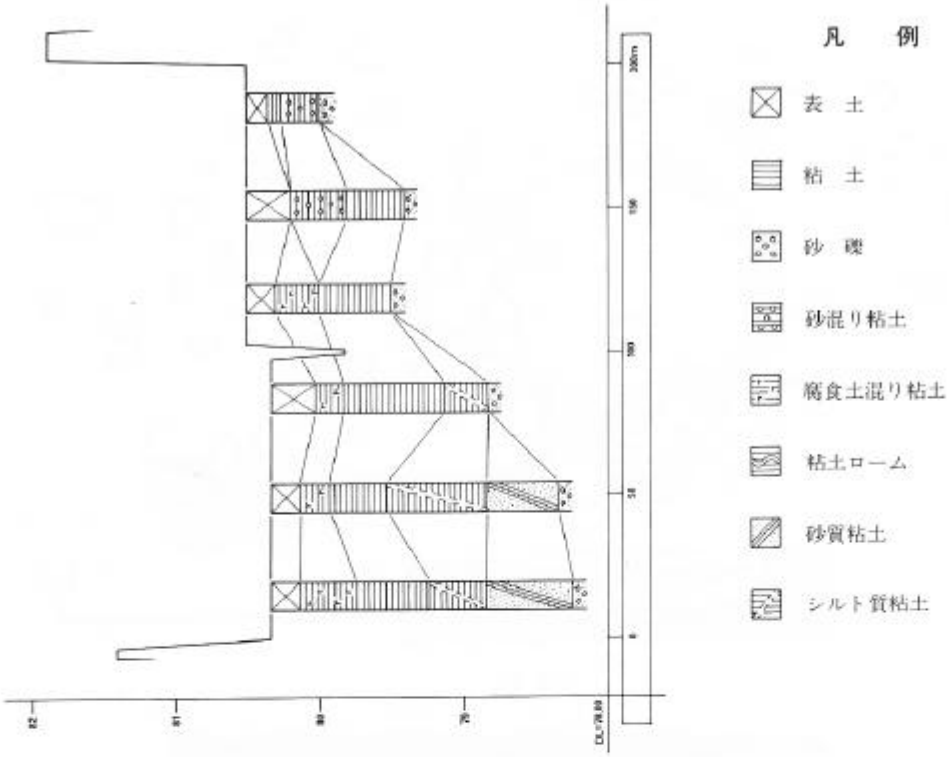


第16図　上谷地中遺跡位置図





第17図　上谷地中遺跡新旧地形図及び土層断面図

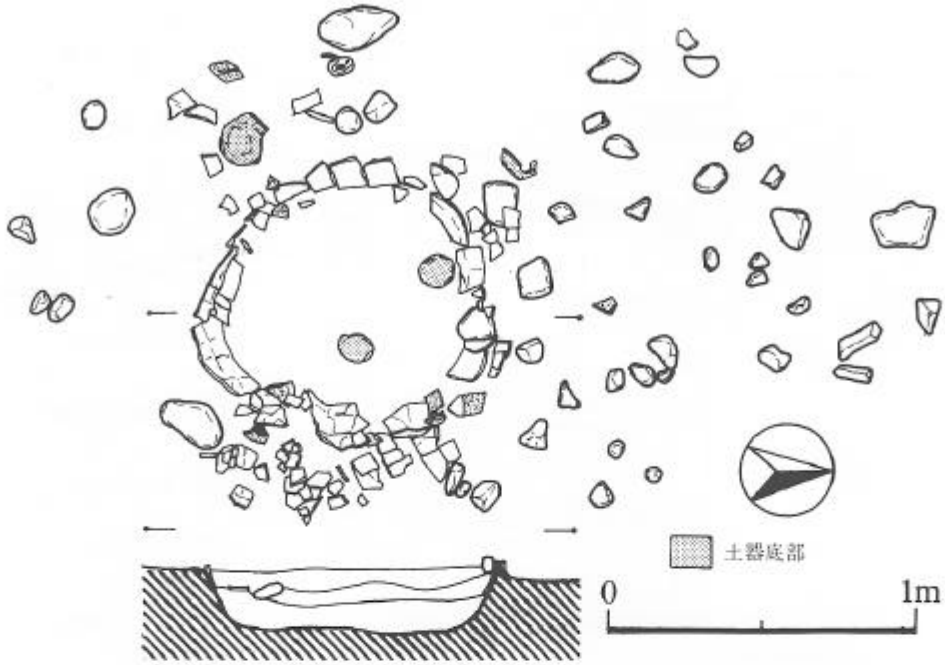


遺　跡　遠　景

SQ15

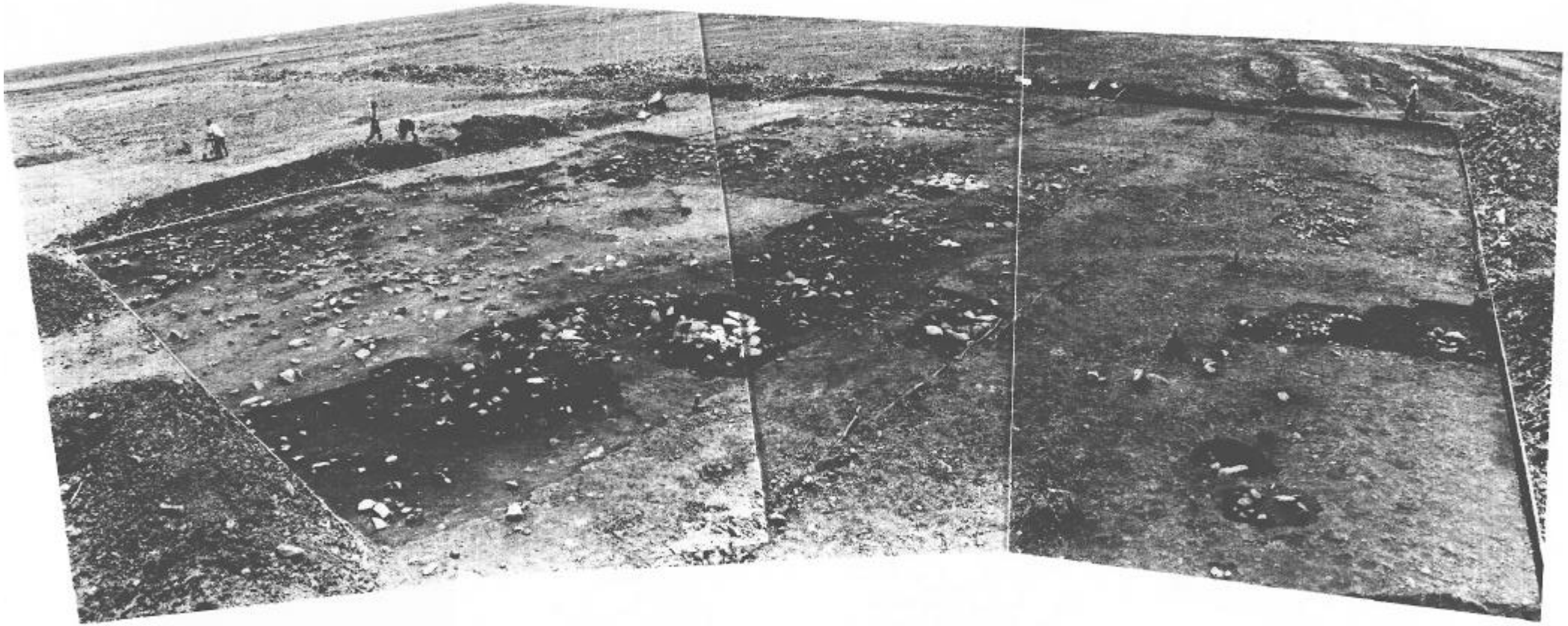
配石遺構近景

調　査　風　景

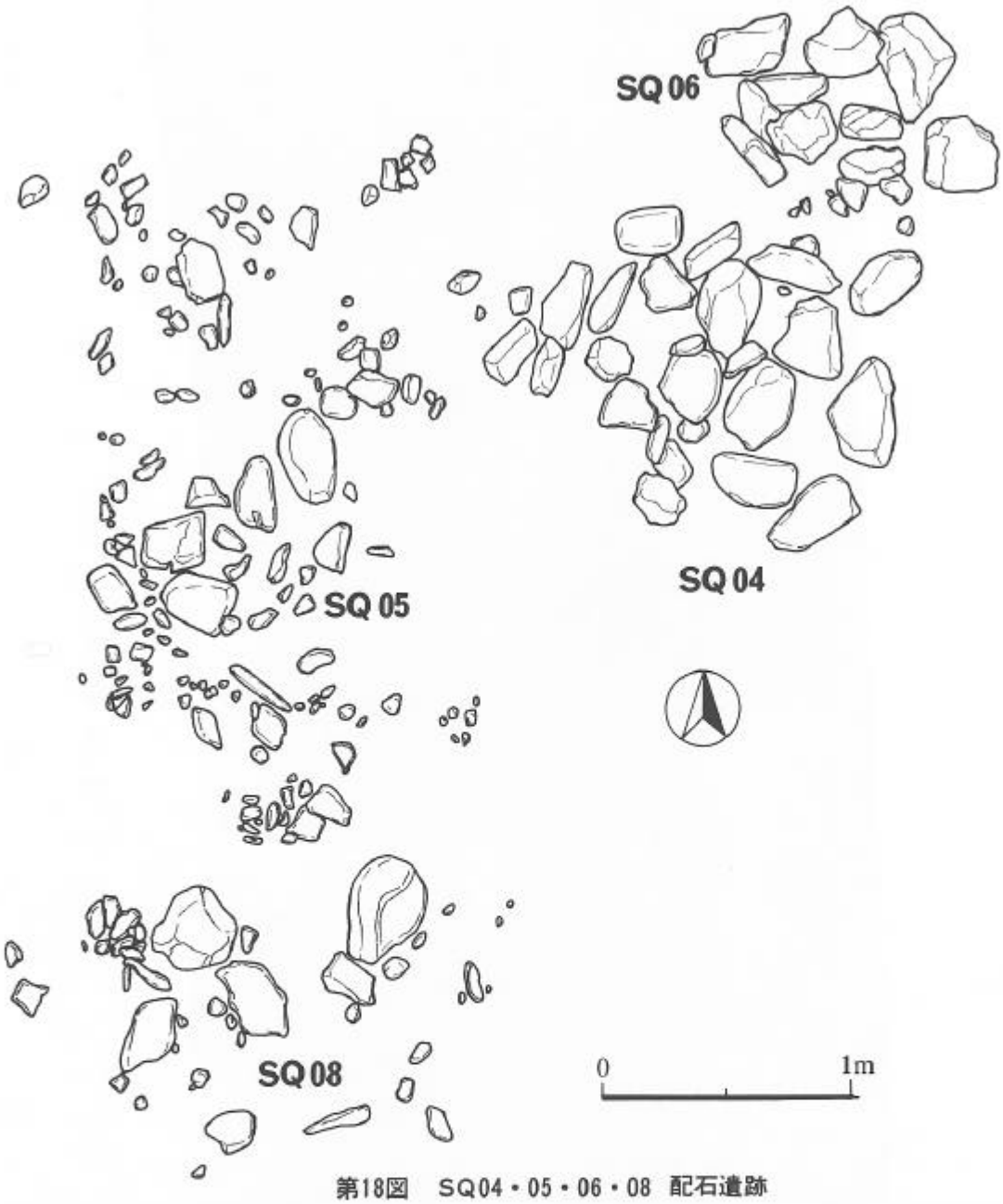


SX 30

SX 30　出土土器



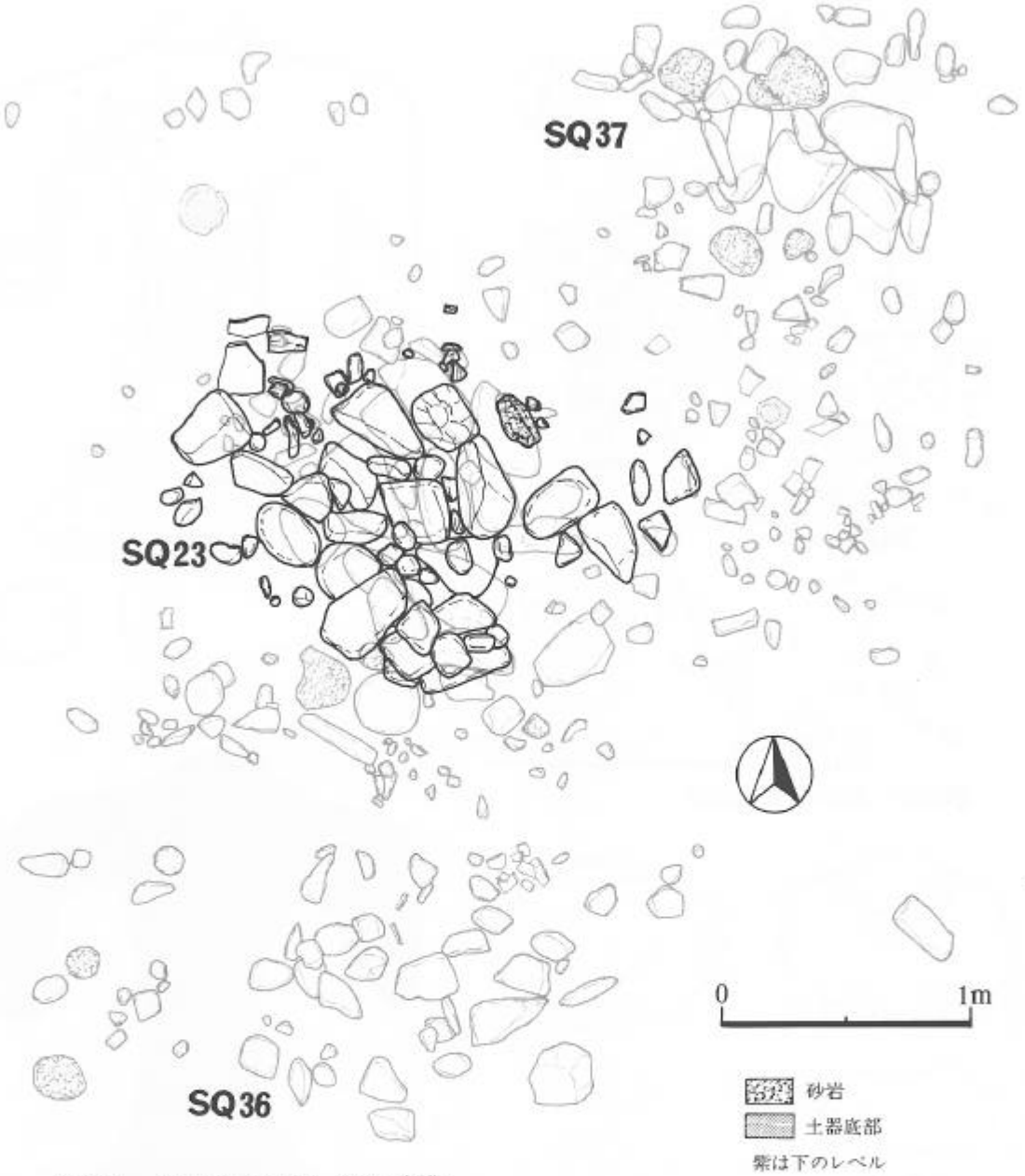
配石遺構近景



第18図　SQ04・05・06・08 配石遺跡

SX 30

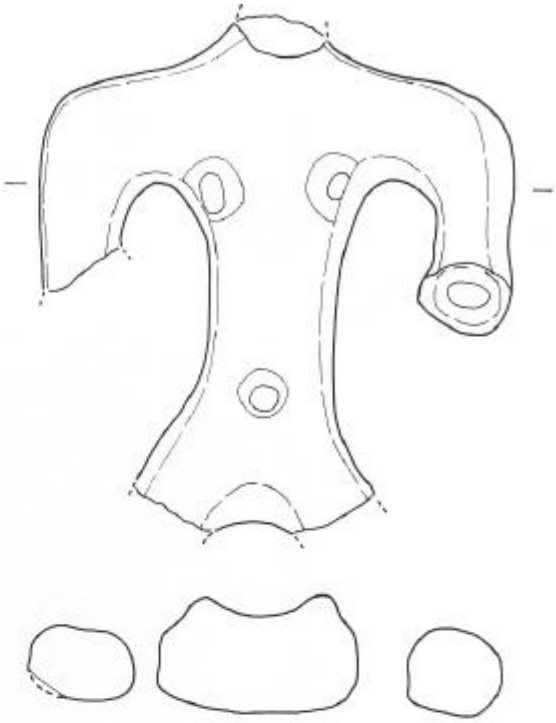
SQ 04



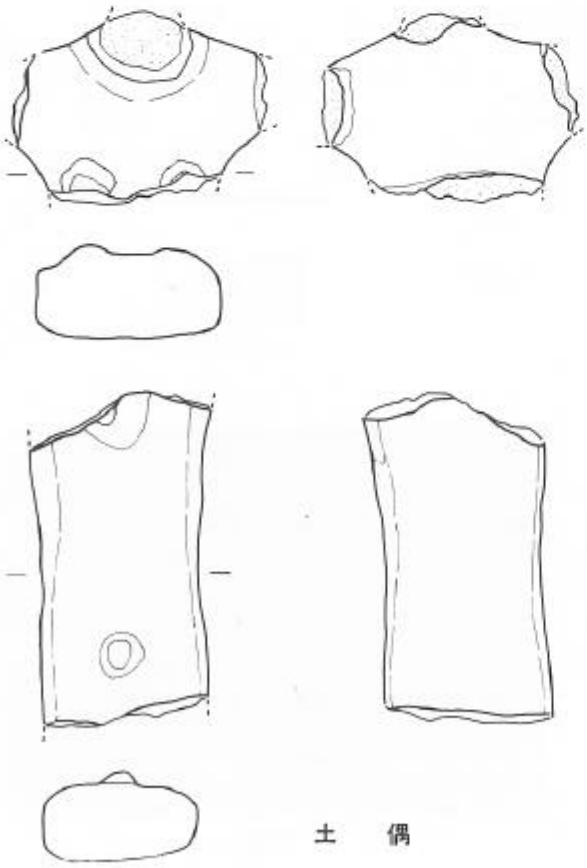
第19図　SQ23・36・37　配石遺構

SQ23

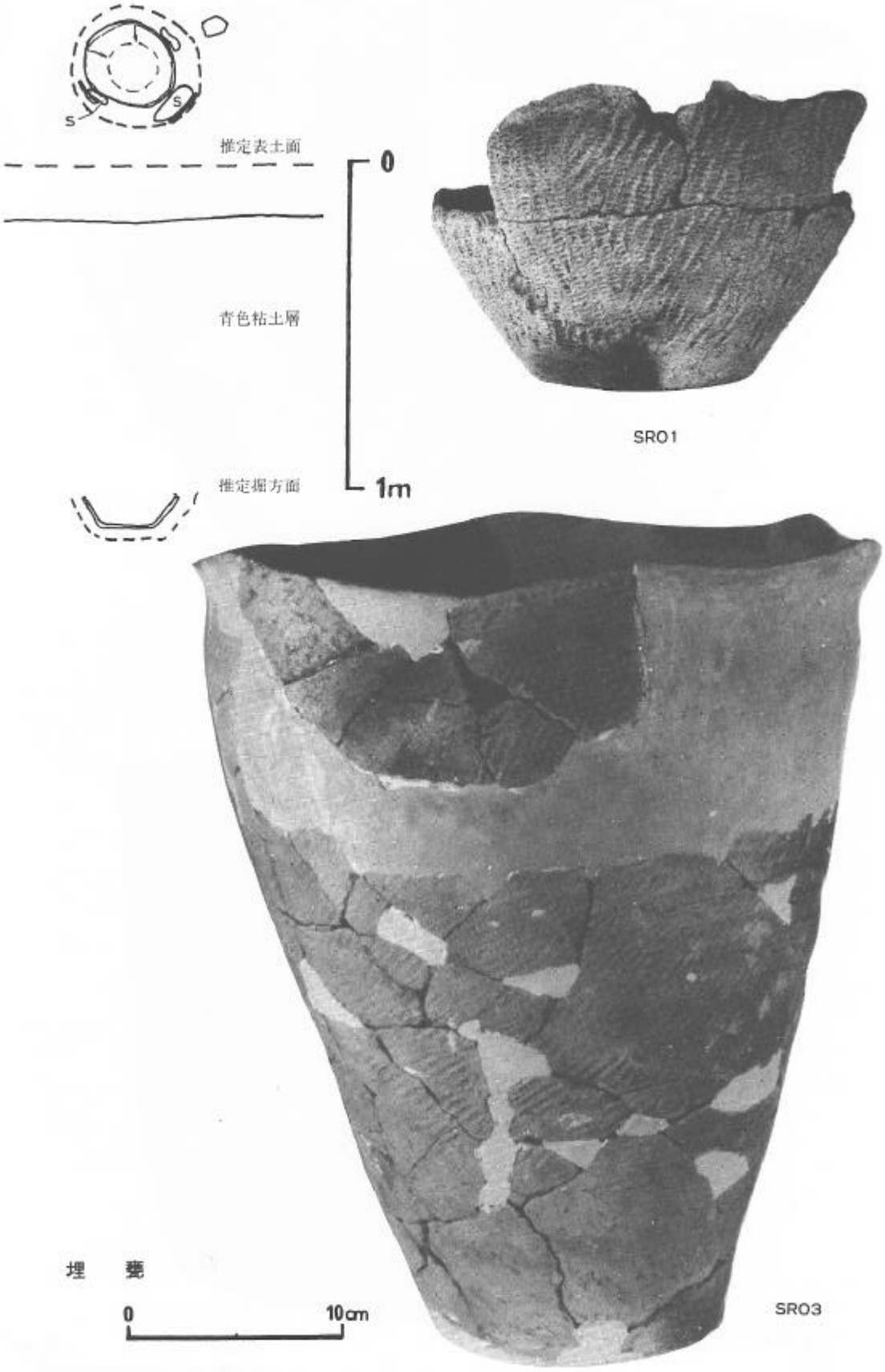
SQ37

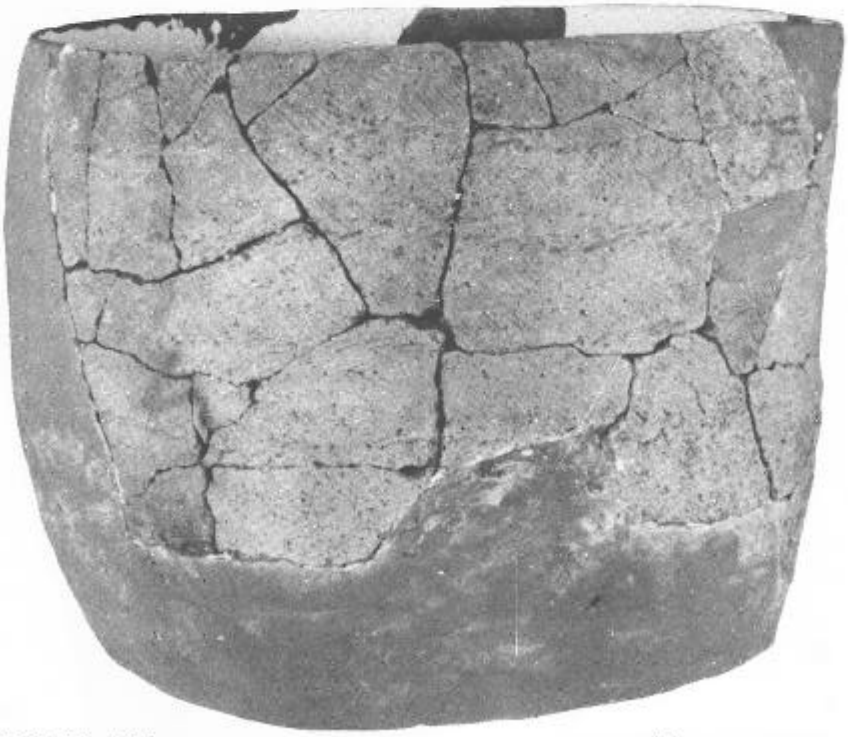


第20図　SQ15　配石遺構



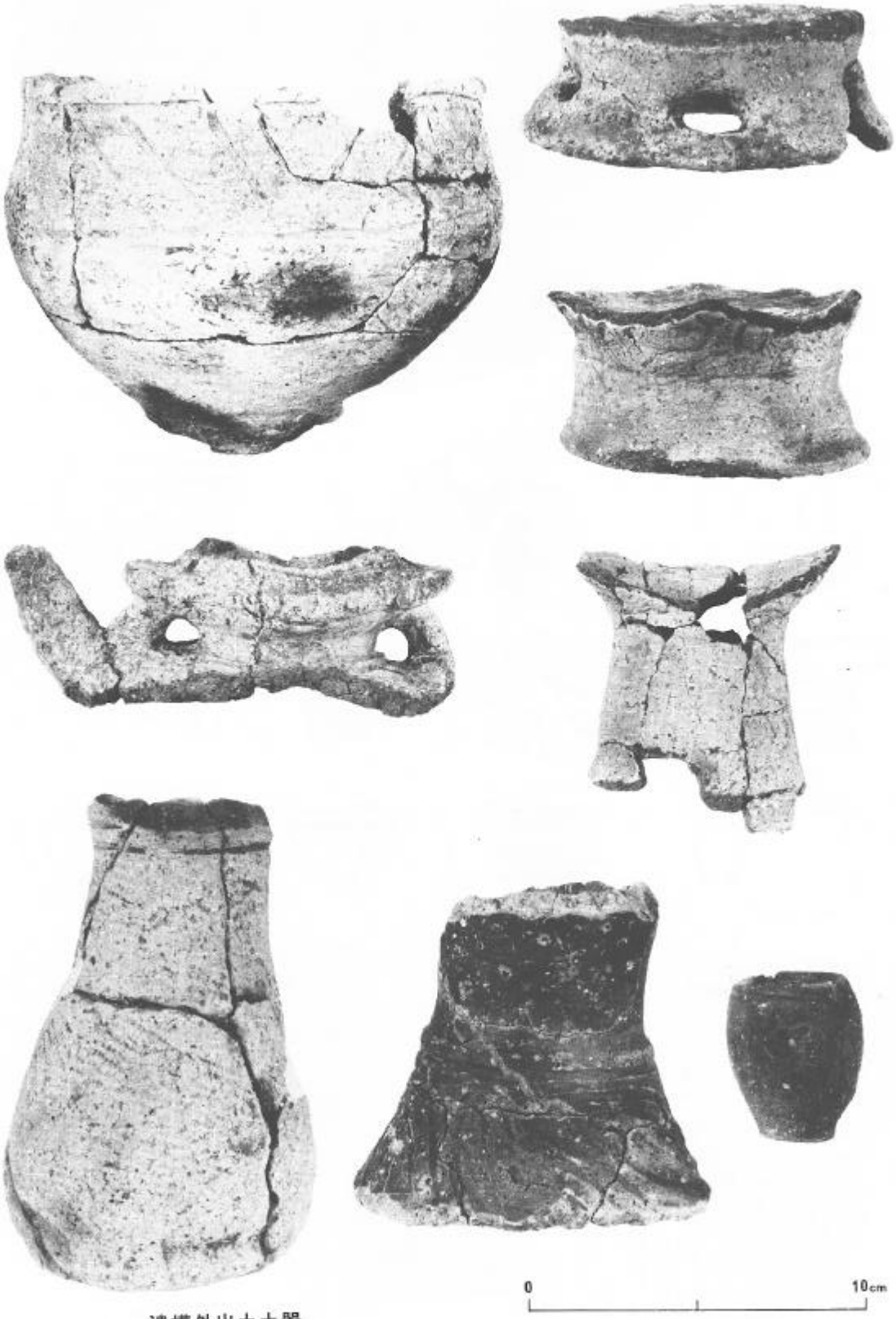
土　偶


S
S
推定表土面
0
青色粘土層
1m
推定掘方面
SR01
SR03
埋　甕
0
10cm



遺構外出土土器

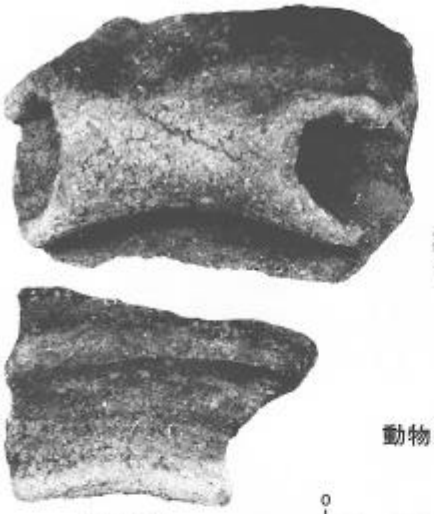
0　10cm



遺構外出土土器

注口土器

第21図　上谷地中遺跡出土土器拓影図(1)

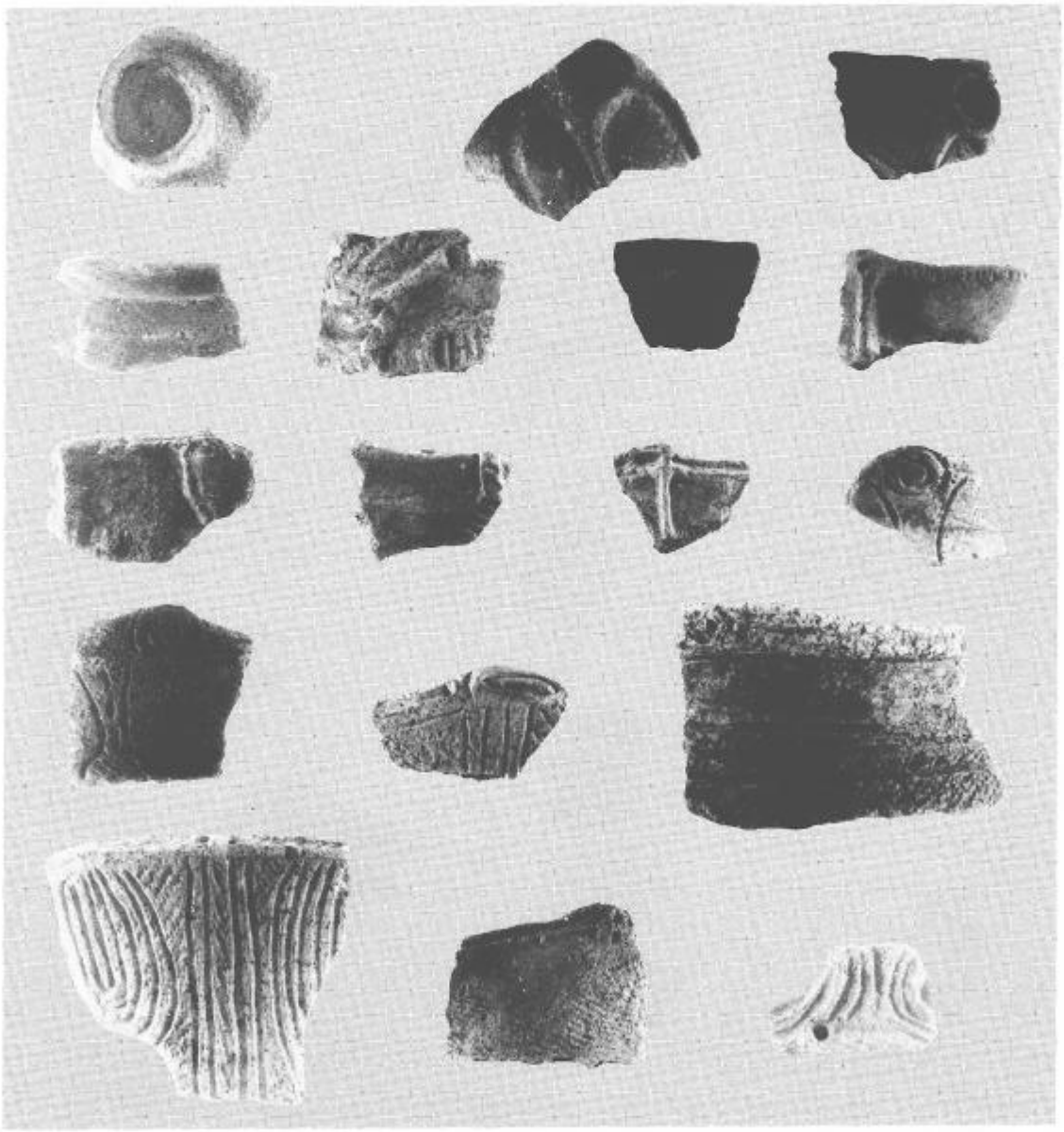


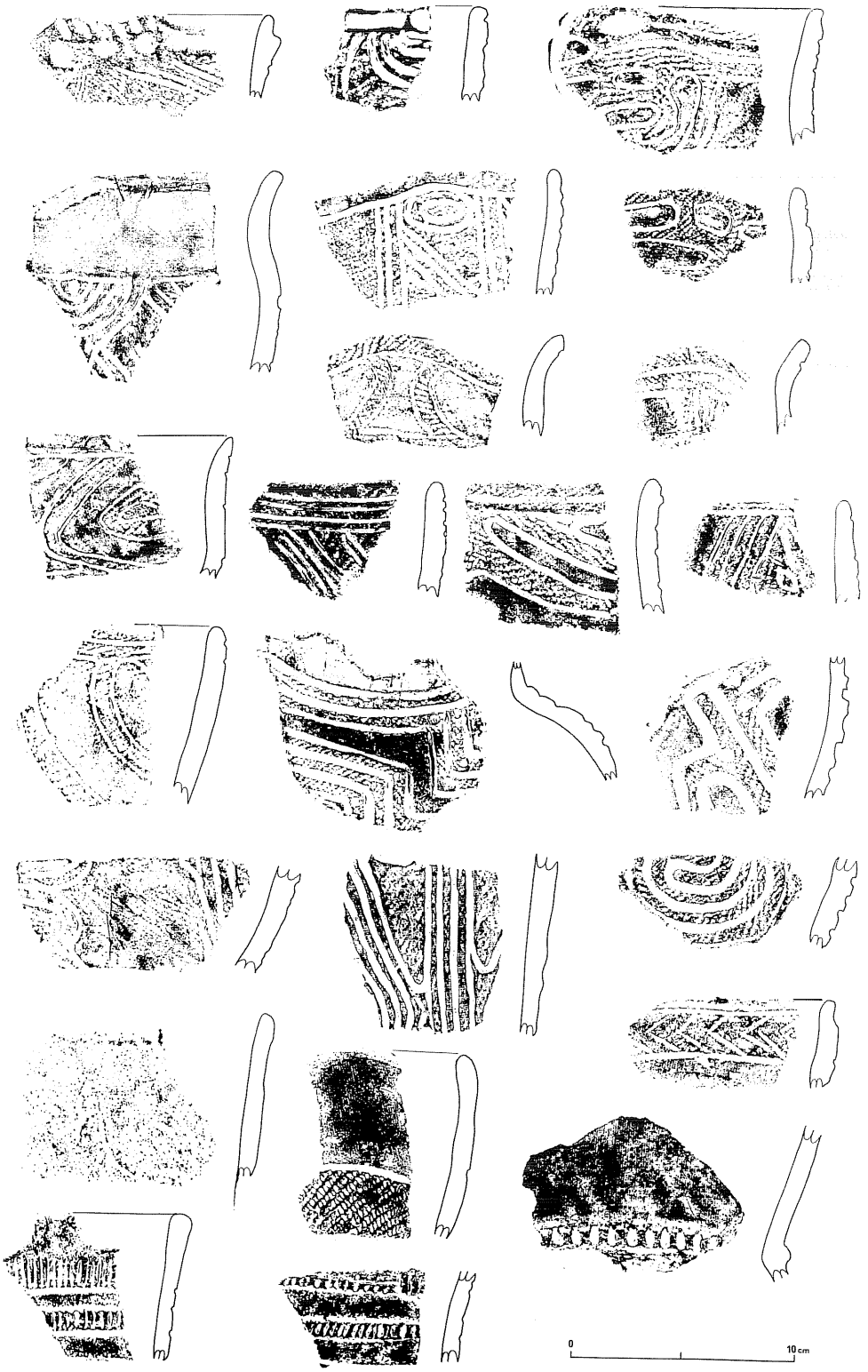
朱塗土器

動物を形どった口縁を持つ土器

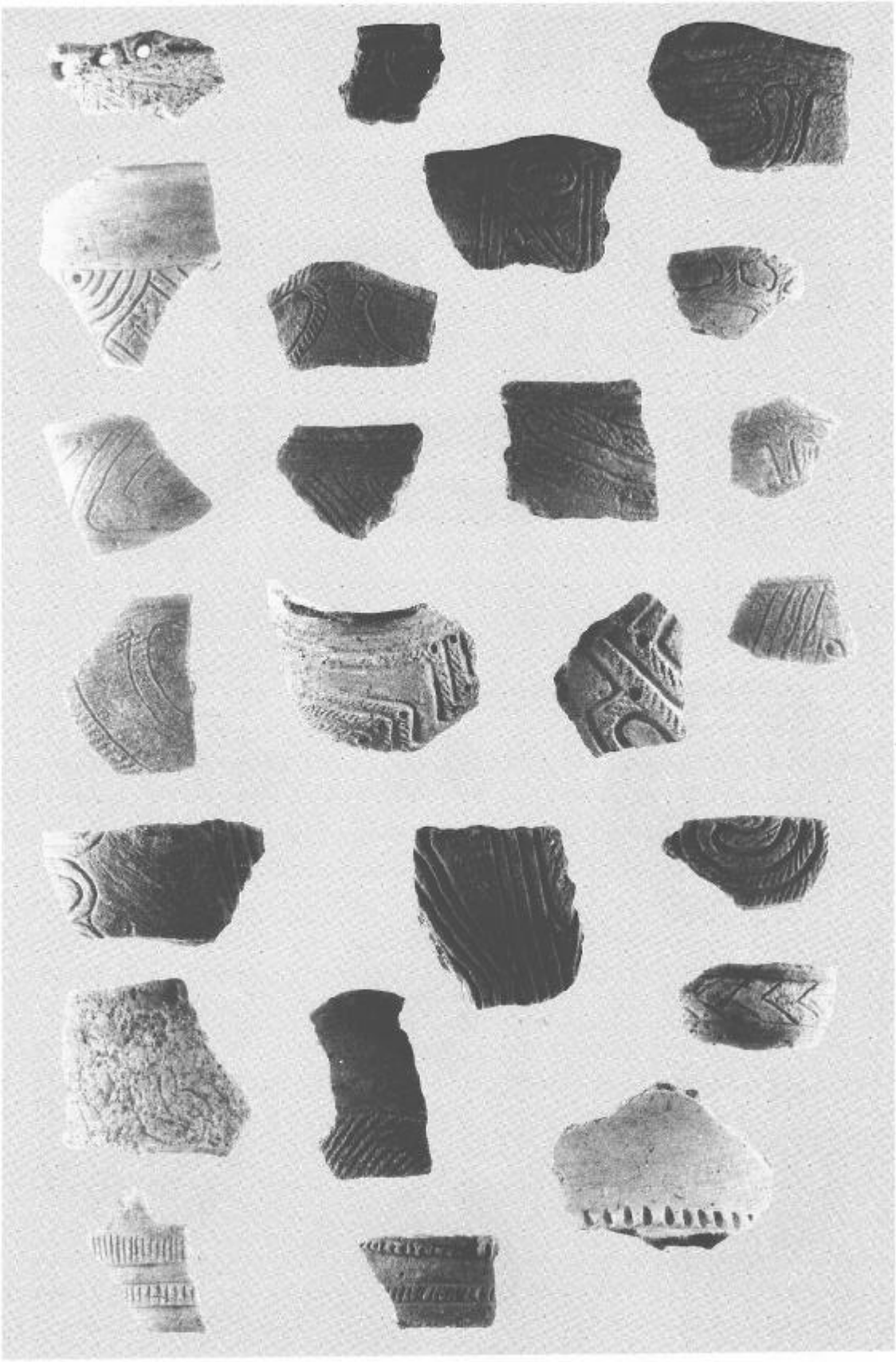
0 5cm

0 10cm

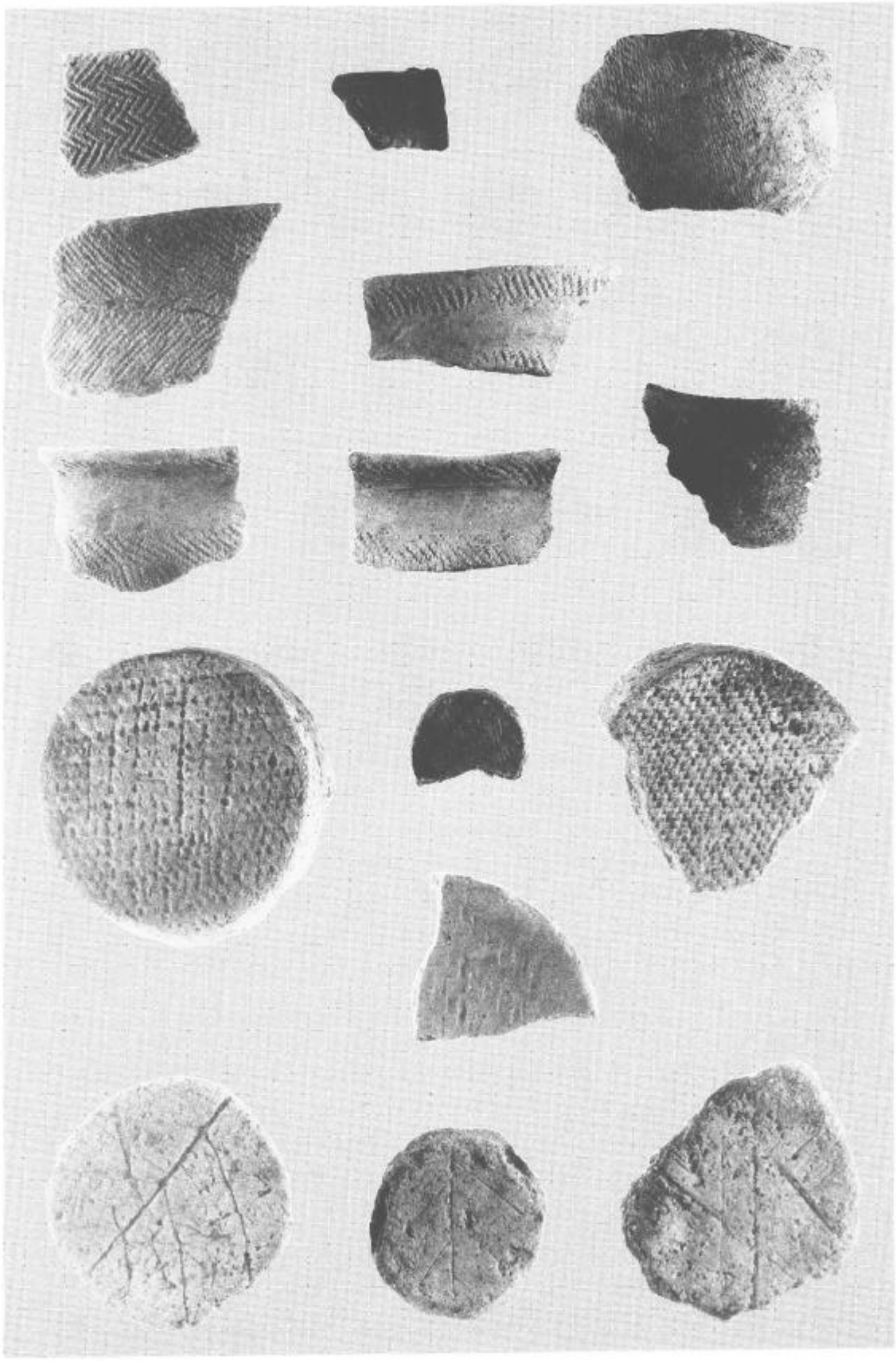


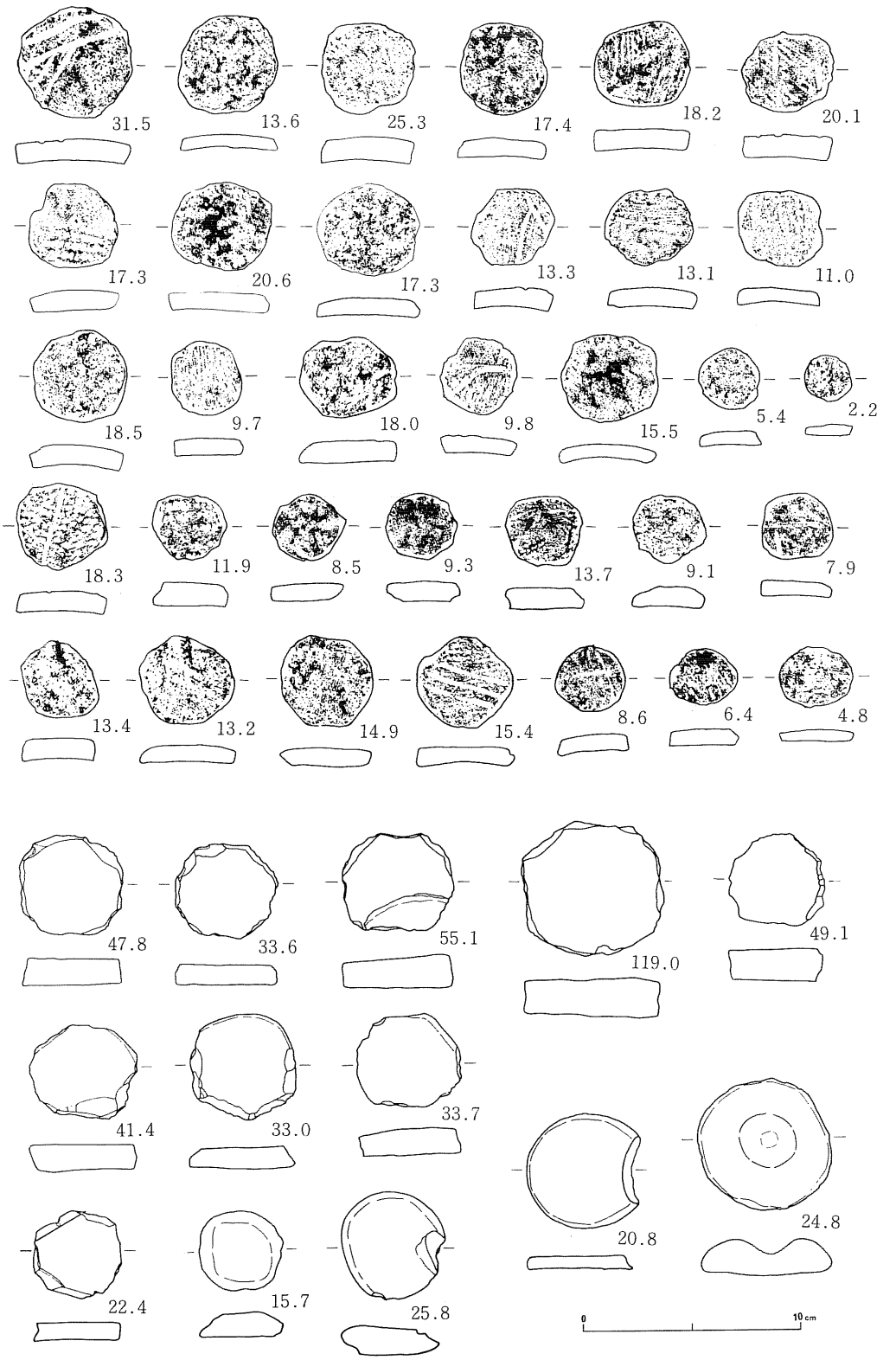


第22図　上谷地中遺跡出土土器拓影図(2)

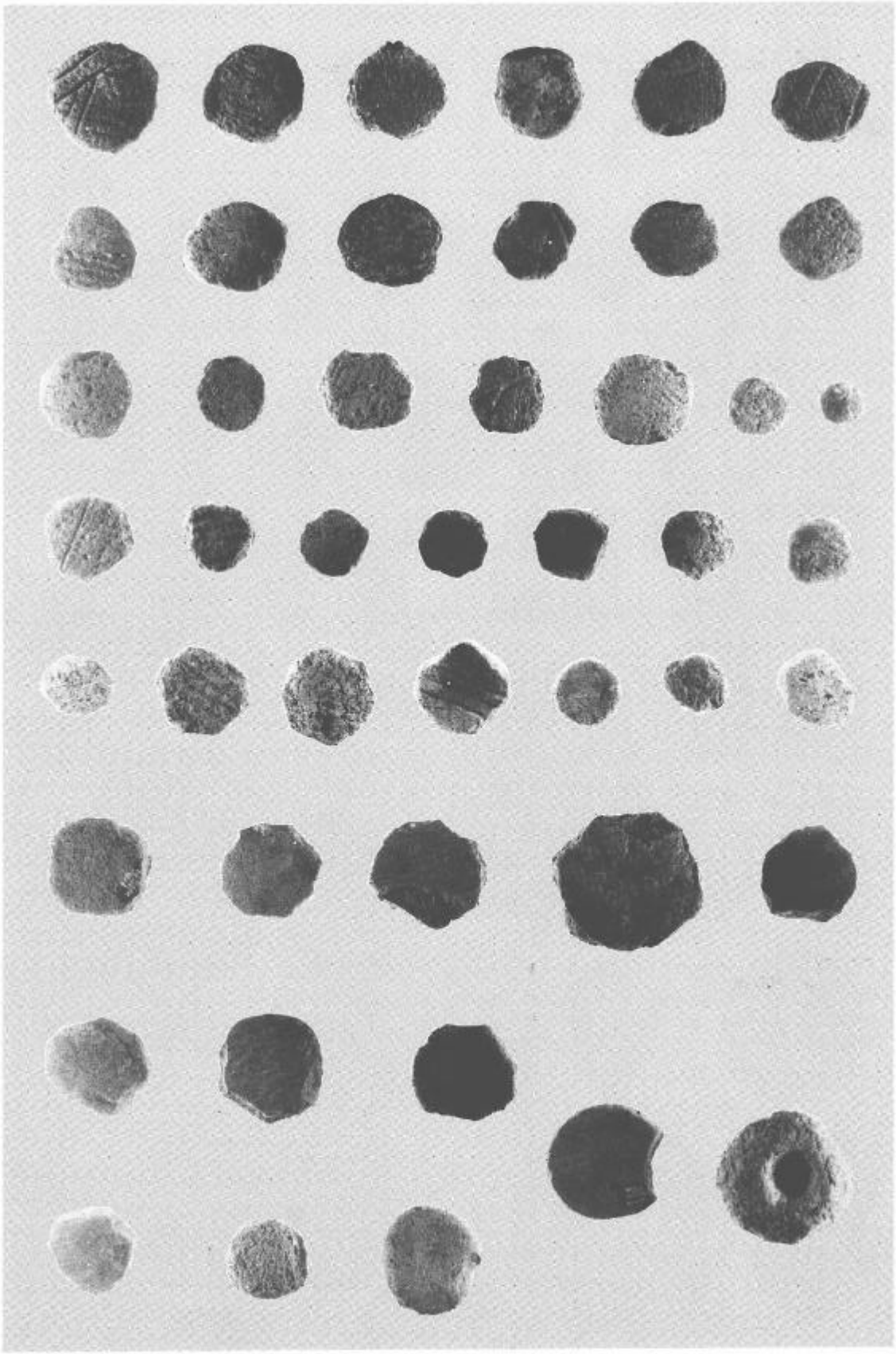


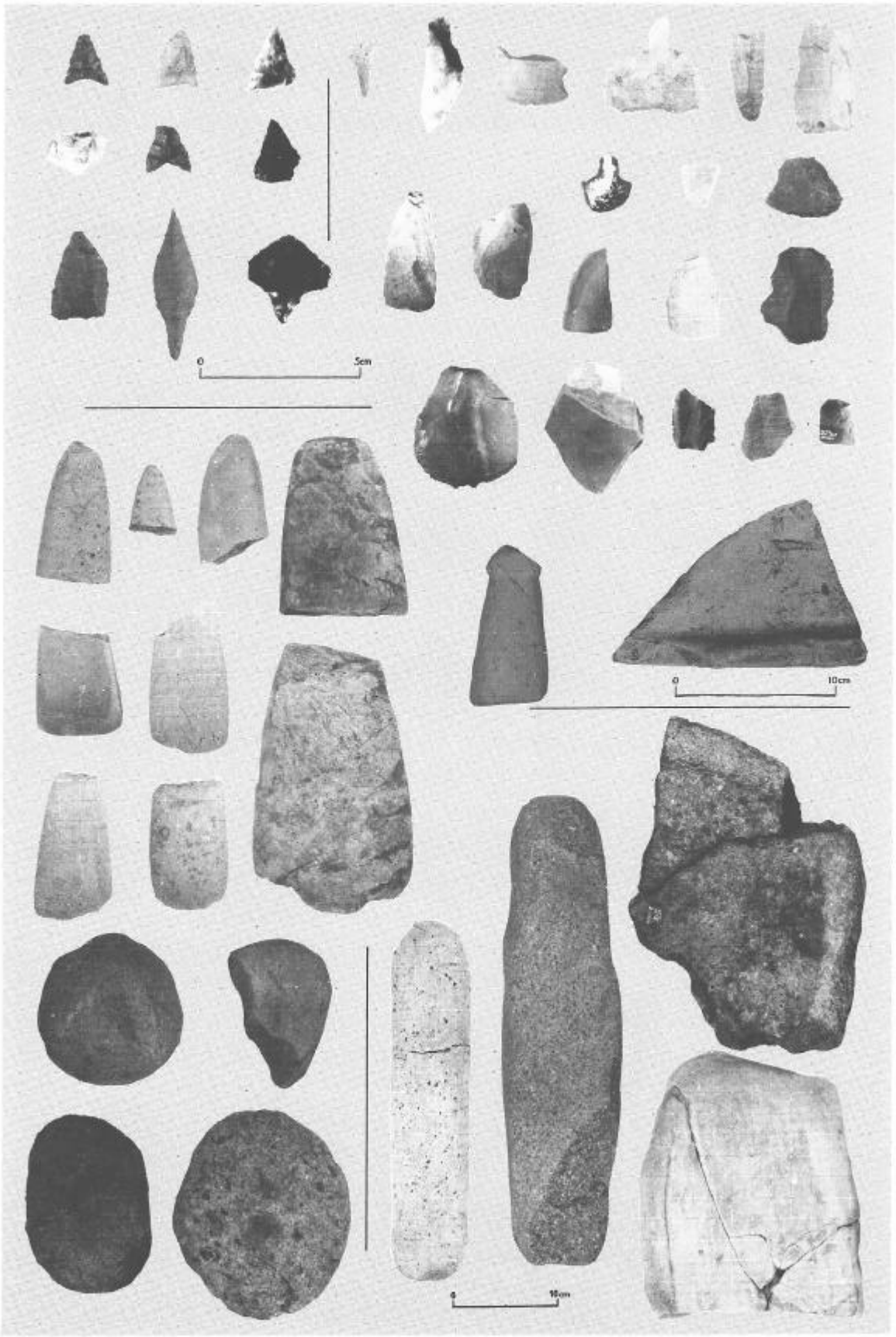
第23図　上谷地中遺跡出土土器拓影図(3)



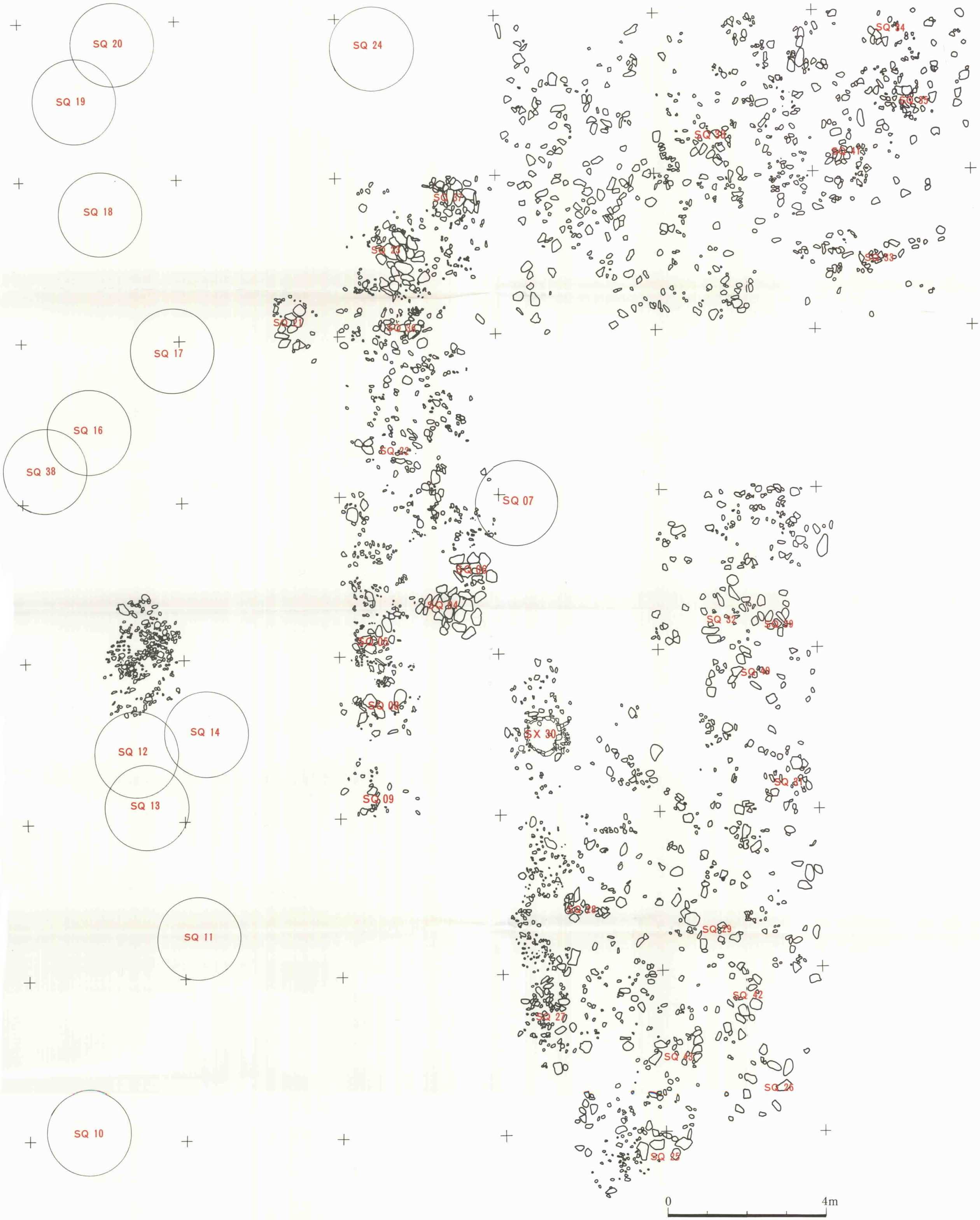


第24図　上谷地中遺跡出土円盤状土・石製品実測図　　数字は重さ（単位g）





遺構外出土石器



付図　上谷地中遺跡配石遺構実測図　（上が北）